

朝鮮總督府
朝鮮秘第一二五八號

昭和五年九月三十日

朝鮮總督府 警務局長

昭和五年拾月四日 接受

拓務省朝鮮部長 殿
内務省警務局長 殿
警務總局局長 殿
台灣總督府警務局長 殿
關東軍警務局長 殿
京都府知事 殿
神奈川、兵庫、長崎、愛知、山口、福岡縣知事 殿
外務省亞細亞局長 殿
外務省歐米局長 殿
在支公使 殿
天津、上海、奉天、吉林、哈爾濱、青島、總領事 殿
安東、鐵嶺、長春、領事 殿
朝鮮軍司令官 殿

朝鮮憲兵隊長司令官 殿
各法院檢察正長 殿
各道知事 殿
各派遣員 殿

東方勞力者共產大學卒業生ノ取調狀況ニ關スル件

本年三月火曜派朝鮮共產黨再組織事件檢舉ニ關シテハ七月二十五日付

朝鮮秘第一〇二五號火曜派朝鮮共產黨再組織事件檢舉ニ關スル件ヲ以

テ既報シタル處ナルガ同事件ニ關與シタル被疑者中ニ在莫斯科東方勞

力者共產大學² (Kodangin Communists' University) 卒業生タル權五稷、李永祚、余應基、高四察、朴

長松、朱青松等アリ之等ハ何レモ大正十四年四月朝鮮共產黨竝高麗共

産青年會結黨直後黨留學生トシテ莫斯科ニ派遣サレタル者ナルガ對露

關係及赤化防止資料トシテ特ニ入露後ノ行動及歸鮮事情等ヲ詳細ニ取

調タル處各被疑者ノ供述ハ概要別紙ノ通りニシテ之等被疑者ハ入寮後
總テソヴェート官憲ノ便宜ヲ受ケ入學中ハ學費其ノ他ノ費用ヲ學校ヨ
リ受ケ卒業後ハ一定ノ期間工場等ニ於テ勞働實務ニ服シ歸鮮ニ際シテ
ハ國際共產黨ヨリ夫々朝鮮赤化ノ使命ヲ授ケラレタルコトヲ述ヘツレ
ルガ朝鮮共產黨ハ昭和三年七月コミンテルン第六回大會ニ於テ漢陽清
算ノ爲其ノ承認ヲ取消サレ同年十二月コミンテルン執行委員會政治書
配局ニ於テ新ニ黨再組織ノ決定書ヲ採擇スルヤ朝鮮ニ對スル赤化方針
ヲ一新シテ既存ノ共產黨員ニハ關係ナクコミンテルン自ラ共產大學卒
業生ヲ入鮮セシメ農民、勞働者、小ブルジョア階級層ニ投ジテ精銳分
子ヲ抽出シ先ツ部分的、地方的ニ共產黨ノグループヲ組織シ然ル後國
際共產黨ノ運動方針ニ合致スル眞實ナル朝鮮共產黨ヲ再建スヘク方策
ヲ執リツツアルモノノ如ク之等ノ狀況ハ從來ニ於テモ各種ノ情報及被

2

疑者ノ供述等ニ依リ充分判明シ居タル處ナルモ本件取調ニ依リ此ノ間
ノ事情ヲ一層明瞭ニシ今後ノ取締對策上相當者スル處アリト認ム
尙權五優等ト共ニ朝鮮共產黨留學生トシテ東方勞力者共產大學ニ入
學シタル鄭觀行、金石然ノ取調狀況ハ昭和三年十二月二十八日付朝
保秘第三〇二三號國際共產大學卒業生歸鮮ニ關スル件ヲ以テ既報致
置キタルヲ以テ彼此ノ供述ヲ綜合スルトキハ尙一層得ル處アリト認
認メラル御參考迄

共産大學卒業生収調者

本籍 慶尙北道安東郡豊西面佳谷里四二二

住所 京城府桃花洞八五

南業結

ウオストコフ

コト 樞

五

稷 當二十五年

本籍 咸鏡北道穩城郡穩城面周原洞五三七

住所 仁川府松峴里五六

朴志成、余允實
徐永鎬、ゼムリ

コト 朴

長

松 當二十八年

本籍 忠清南道輪山郡江景面北町

住所 京城府桃花洞八五

金貞植、高明子
金貞祚、シベリスカヤ

コト 高

四

察 當二十五年

3

本籍 慶尙北道安東郡豊山面磨厓洞

住所 釜山府萬一 朴載鳳方

朴文、李相元
張岳、ベトロフ

コト 朴

永

祚 當二十五年

本籍 慶尙北道體泉郡普門面眉湖洞一二三

住所 平壤府箕林里一四七

李定基
ズナメンスキー

コト

金

應

基 當三十一年

本籍 咸鏡北道穩城郡穩城面淳淵洞水南里

住所 露領沿海州ニコリスク市マルサカヤ三三

朴成春

コト

朱

青

松 當二十七年

本籍 平安北道義州郡義州面南門洞

住所 新義州府雲井町二

高俊
安昌道

コト

安

秉

珍 當二十九年

I-0852

本籍 忠清北道忠州郡邑内面龍山里六〇六
住所 京城府中林洞三二八

業 昌、熙 彰、昌 熙

熙 昌、今 用、オリトモフ コト

超 今 龍 當三十三年

I-0852

目次

一、朝鮮共産黨ヨリ留學生トシテ選拔セラレ入露ノ経路

- 1 入露ノ動機又ハ留學生トシテ命令シタル者ノ氏名及旅費ノ出所
- 2 入露ノ手續及経路
- 3 留學生トシテ行ヲ共ニシタル者ノ動靜

二、入露後ノ状況

- 1 入露後莫斯科到着迄ノ状況
- 2 入學手續

三、入學後ノ状況

- 1 學費及起居ノ状況
- 2 共産大學ノ内容
- 3 朝鮮人學生ノ状況

四、學科及授業ノ状況

- 1 卒業後ノ動靜
- 2 卒業後ノ課業
- 3 歸鮮ノ使命
- 4 歸鮮ノ経路及旅費ノ出所
- 5 歸鮮後ノ状況
- 6 生活費ノ出所

五、朝鮮共産黨トコンミンテルンノ關係

- 1 朝鮮共産黨ノ承認及資金關係
- 2 コンミンテルン内ニ於ケル朝鮮人黨員
- 3 コンミンテルンノ東洋赤化方略殊ニ朝鮮ニ對スル宣傳方法
- 4 コンミンテルンヨリ朝鮮共産黨ヘノ命令系統

5 朝鮮共產黨ヨリコミンテルンヘノ報告系統

六、朝鮮共產黨最近ノ情勢

1 一九二八年十二月コミンテルンノ執行委員會政治書記局ノ採

擇シタル決議「革命闘士タル農民及労働者ニ對スル朝鮮問題」

(朝鮮共產黨再組織ニ關スル指令)ノ影響及活動狀況

2 黨再組織ノ方法及理論

3 再組織問題ト派閥關係

4 國外ニ於ケル再組織運動ト派閥爭鬭狀況

一、朝鮮共產黨ヨリ留學生トシテ選拔セラレ入露ノ經路

1、入露ノ動機又ハ留學生トシテ命令シタル者ノ氏名及旅費ノ出所

イ權 五 櫻（大正十四年十一月入學）

本名ハ大正十四年九月下旬元時代日報仁川支局員トシテ同地ニ居住シ仁川青年聯盟組織準備ニ付張順明等ト共ニ奔走シツツアリシ當時朝鮮共產黨幹部金燦ノ來訪ヲ受ケ仁川府龍里元時代日報支局内ニテ會見シタル處金燦ヨリ今回露國共產大學留學生トシテ朝鮮共產黨ヨリ派遣スルコトヲ決定セルヲ以テ旅費ハ京城ニ於テ高麗共產青年會責任秘書朴憲永ヨリ受領スヘシトノ命ヲ受ケ直チニ同日夕刻入城シ京城府黨井洞ニ居住中ナリシ朴憲永ヲ訪問シ金燦ヨリノ命ヲ告ケタル處朴ヨリ金三十圓ヲ旅費トシテ交附セラレ尙官憲ニ察知セラレサル様上海ニ赴キ同地共產黨

7

員ニシテ連絡機關タル東亞日報支局長鄭秉旭ト面會シ詳細ナル指示ヲ受クヘシトノ命ヲ受ケタリ

口朴 長 松（大正十四年十一月入學）

大正十三年三月京城私立中央高等普通學校卒業同年四月私立延禧專門學校ニ入學シタルモ本名ソ實家ハ生活裕福ナラサリシヲ以テ常ニ學費ニ窮シツツアリテ高陽郡龍江面阿峴里余教養方ニ寄寓家庭教師ヲ勤メ月十圓ノ手當ヲ受ケ漸ク學費ヲ續ケツツアリシカ大正十四年六月頃ニ至リ右手當ヲ中絶セラレタル爲メ止ム無ク同校ヲ退學シ爾來徒食シツツアリシガ叔父朴祿乘ヨリ露國ニ渡航セバ國費ヲ以テ勉強シ得ル機關アル旨ヲ聞キ入露ヲ決意シ是カ斡旋方ヲ依頼セリ

然共產黨留學ノ第一條件トシテ社會運動者タラサルヘカラサル

ヲ開キ朴舜秉ノ紹介ニヨリ當時京城ニ於テ最モ活動旺盛ナリシ
新興青年同盟ニ加盟シタルモ未タ社會運動ニ經驗乏シク從ツテ
同盟内ニ於テモ重要視セラレタ_レヲ以テ専心社會科學ノ研究ヲ
爲シツツアリシガ同年九月十五日頃朴舜秉ノ紹介ニテ京城府黨
井刺番地不詳ニ於テ萬應共產青年會責任秘書朴憲永ト初メテ會
見シタル處朴憲永ヨリ共產大學留學生トシテ派遣スヘク決定シ
タル旨ヲ告ケラレ且ツ入學ノ際口頭試験アラハ共產青年會候補
會員ナリト答フヘシ尙ホ詳細ハ上海ニ於テ鄭秉旭ヨリ指示スヘ
シトテ上海迄ノ旅費三十圓ヲ交附セラレタリ

ハ高 四 察（大正十四年十一月入學）

大正十四年三月大邱進明女學校卒業後直チニ入京シ朝鮮總督府
醫院助産婦養成所ニ入所シタルカ當時梨花女學校幼稚園範科二

年在學中ノ陳三順（本籍慶尙南道統營郡以下不詳）ハ進明女學
校在學中同級生ナリシヲ以テ自然京城ニ於テモ親交ヲ結フニ至
リ同人ノ紹介ニテ當時火曜會幹部タリシ金丹治ヲ知り交遊中戀
愛關係ヲ結ビ更ニ金ノ紹介ニテ京城女子青年同盟幹部タリシ許
貞淑、朱青竹ト往復シ同會ニ入會シ思想運動ニ興味ヲ感シ後同
同盟執行員トナリ活動スルニ至レリ其後同年九月末金丹治ヨリ
上海ニ留學スヘク勸メラレタルカ先之本人ハ學費金無キ爲助産
婦養成所ニ入所シ居タルモ元來東京若クハ支那方面へ留學シ度
キ志望ヲ有シ居タルヲ以テ直チニ是ヲ快諾シタルカ數日後金丹
治ヨリ旅費トシテ四十圓ヲ交附セラレ金ノ注意ニ依リ上海留學
ハ親友陳三順、許貞淑、朱青竹等ニモ絕對秘密ニ附シ十月初旬
單獨京城出發釜山經由上海ニ向ヒタルカ上海到着後初メテ莫斯

科共產大學ニ入學スルコトヲ知リタリ

二李 永 祚（大正十四年十一月入學）

大正十一年郷里ニ於テ普通學校卒業^後入京シ中央高等普通學校ニ入學シタルガ當時京城ニ於テ火曜會其他ノ思想團體ニ關係シ居タル權五萬ハ普通學校當時ノ教師ナリシヲ以テ入京以來屢々同人ヲ訪問シ權ノ所持シ居タル思想書籍ヲ借り受ケ耽讀スルニ及ビ自己ノ貧困ニシテ學費ニモ窮スル境遇ニ在リシ時ナルヲ以テ自然是ニ共鳴スルニ至リ又數回權五萬ヨリ共產主義ニ關スル説明ヲ受ケ一層其念ヲ強メ居タル折柄大正十四年九月下旬頃權五萬ヨリ上海ニ赴キ同地居住鄭秉旭ニ面會其指導ヲ受クレバ學費不要ニテ勉學シ得ヘキ旨告ケラレ同校入學ヲ希望シ其手續ヲ依頼シタル處數日後權五萬ヨリ旅費トシテ金三十圓ヲ交附セラレ

9

尙出發ニ際シ上海到着後鄭其他ノ者ヨリ身上ヲ聞カレタルトキハ大正十四年八月一日高麗共產青年會員候補トシテ入會シタル者ナリト答フ様告ケラレ本人ハ初メテ共產黨ヨリ派遣セラレタルモノナルコトヲ察シ十月初旬單獨京城出發下ノ關長崎經由上海ニ向ヘリ

ホ金 鷹 基（大正十四年十一月入學）

本人ノ實家ハ相當資産アリ且地方ニ於ケル名家タリシガ嘗父ノ面長奉職當時豪奢ナル生活ヲ爲シ且ツ性來酒豪ナルヲ以テ本人ノ普通學校卒業當時ハ殆ント資産ヲ蕩盡シ上級學校ニ入學スル能ハス面書記等ヲ爲シ生活ヲ助ケツツアリシカ如斯家庭的逆境ハ本人ノ思想ヲ惡化セシメ本籍地（慶北醴泉）ニ於テ新興青年會等ノ思想團體ニ出入シ社會運動ニ奔走スルニ至リタルカ大正十

四年七月頃所用ノ爲入京シタル際當時府内安國洞所在火曜會ヲ
訪問シ朴憲永ト語り進ンデ社會科學ノ研究ヲ爲シ度キ意向ヲ漏
シ歸郷シ居タル處同年九月末朴憲永ヨリ至急入京方通信ニ接シ
上京朴憲永ヲ訪問シタルニ朴ヨリ莫斯科共產大學入學方勸誘セ
ラレ直チニ快諾シタルニ上海ニ赴キ鄭秉旭ノ案内ヲ乞フヘント
テ旅費三十圓ヲ支給セラレタルヲ以テ同夜單獨京城發新義州經
由上海ニ向ヒタリ。

（朱 青 松（大正十二年九月））

普通學校卒業後間島私立東興中學ニ入學シタルカ大正十二年五
月同校三年在學中露西亞共產黨員ニシテ當時沿海州露西亞共產
黨沿海州執行委員會高麗部派遣員朴允世カ龍井ニ來リ共產主義
宣傳ヲ爲スニ及ヒ之カ感化ヲ受ケ同窓生タル咸北慶源出生李梁

黨、咸北出生洪範瑞、咸北出生李基石、咸北出生南俊杓、咸北
明川出生金世光ノ五名ト共ニ共產主義ニ共鳴シ前記五名等發起
人トナリ朝鮮共產青年會間島龍井學生ヤチエカヲ組織シテ共產
主義ヲ研究シ同窓學生ニ對シ之カ宣傳ヲ爲シツツアリタリ
然ルニ當時本名ハ病氣ノ爲メ身體衰弱シ加フルニ彼等ノ行動漸次
當局ノ注目ヲ受クルニ至リタルヲ以テ身ノ危險ヲ惧レ居タル折
柄朴允世ヨリ共產大學入學方ヲ懇懇セラレタルヲ以テ大正十二
年九月頃朴允世ニ同行シニコリスクニ赴キタルカ其後幾何モ無
ク朴允世ノ紹介ニヨリ在莫斯科東方勞力者共產大學ニ留學スルコトト
薩部ノ推薦ニテ在莫斯科東方勞力者共產大學ニ留學スルコトト
ナレリ而シテ旅費ハ高麗部ヨリ支給ヲ受ケタルモ當時同行セル
留學生一行十三名ヲ代表シ韓ミハイルニ於テ一括受領シタルヲ

以テ旅費額不明ナリ

ト安 秉 珍（大正十三年九月）

本名ノ亡兄安秉璜ハ豫テヨリ上海ニ於テ社會運動ニ從事シツツアリタルカ大正十年本名ハ亡兄秉璜ノ下ニ於テ上海憲報英文專修學校ニ入學セルカ一年間在學ノ後亡兄秉璜ハ共產黨事業ノ爲メ入露シタルヲ以テ學費ニ窮シタル結果大正十一年秋苦學ノ目的ニテ歸蘇京城ニ來リ微文高等普通學校二學年補欠試験ヲ受ケ入學爾來苦學中四年生トナリタル際ハ日々ノ生活ニモ窮シ到底苦學續行ノ見込無キニ至リタルヲ以テ爾後ノ方針ニ付種々苦心考慮ノ末豫テ在上海當時亡兄ヨリ聞知シタル露國ニ於テハ中等學校程度以上ハ何レノ學校ニテモ全部官費ニテ勉學シ得ルトノ事ヲ追想シ露西亞留學ヲ熱望シ俄ニ居タルガ偶々大正十三

11

年三月學年末休暇ニテ本籍新義州ニ歸郷セシ際豫テ普通學校當時ノ同窓生ニテ昵懇ナル同地金融組合書記高成昌ト會シ安ハ身ノ悲境ヲ訴ヘ露西亞留學ノ意志アル事ヲ洩シタルニ高成昌モ之ニ共鳴行動ヲ共ニスヘク約シ安ハ再ヒ出京通學中同年六月愈々入露ヲ決意シ高成昌ニ對シ旅費ノ工面ノ出來得ル寸準備シテ上京スル様通信シタル處高ハ該金融組合ノ退職金ナリトテ旅費百餘圓ヲ携帶入京セシヲ以テ之ヲ二人分ノ旅費トシテ大正十三年六月京城ヲ出發浦鹽ニ向ヒタリ而シテ本名ハ文學研究ヲ目的トシテ留學ヲ志シタリト云フモ亡兄ハ當時相當ノ主義者ニシテ且ツ本名モ實兄ノ教育或ハ書籍等ニ依リ主義運動ノ何タルカラ解シ居タルノミナラス在浦鹽共產黨員趙勳ヲ頼リテ入露シタル點等ヨリ際シ其ノ當初ヨリ主義研究ノ爲メ留學ヲ志シタルモノナリトシテ同窓生ニテ昵懇ナル同地金融組合書記高成昌ト會ハ

ト察セラル

子趙 彙 昌

大正六年春郷里忠北忠州ニ於テ自轉車店ヲ經營シ居タルモ失敗シタル爲海外ニ於テ商業ヲ營ミ之カ挽回ヲ劃ラムト大正七年九月家財ヲ引纏メ旅費百五十圓ヲ作り忠州ヲ出發京城、新義州、長春經由ハルビンニ到着就職口ヲ求メタルモ適當ナルモノナク當時同地居住某鮮人ヨリヒリツピンニ於ケル護模ノ栽培ノ有望ナルヲ聞知シハルビン所在日本總領事館ニ對シヒリツピン旅行券下附方願出タルモ目的ヲ達セザリシ爲同地ニ約一週間滞在ノ後滿洲里ヲ經テチタニ至リ就職口ヲ求メタルモ適當ナルモノナク已ム無ク運賃行商ヲ爲シ大正十一年迄約四ヶ年間同地ニ居住シ居タルモ當時同地ハ白赤軍ノ戰亂甚シク莫斯科ニ避難シ引續

12

キ約一年間運賃行商ヲ爲シタルモ生活意ノ如クナラザリシヲ以テ在モスコ―朝鮮國民會委員長金イウンニ窮狀ヲ訴ヘ求職方ヲ依頼シタル處同人ヨリ共產大學ニ入學セバ却ツテ生活安全ナリトテ同校入學ヲ勸誘セラレタルヲ以テ同人ノ紹介ニテ東方勢力者共產大學ニ入學スルニ至レリ

2、入露ノ手續及経路

イ 權 五 稜

共產大學入學ニ關シテハ入學者自身竝ニ黨幹部ノ外絕對秘密ナルヲ以テ官憲ニ對スル旅券其他ノ手續ヲ爲サザリシハ勿論共產黨ヨリ入學生ハ取纏メ第三インターナショナルニ對シ諒メ諒解アリタルモノノ如ク個人トシテハ何等ノ手續ヲ要セス余條及朴壽永ノ指示ニ依リ單身大正十四年十月初旬京城出發釜山下ノ關

門司經由上海ニ至リ同地法界氏名不詳支那人飲食店ニ滞在シ朴
憲永ヨリ指差セラレタル東亞日報上海支局長鄭秉旭（朝鮮共產
黨海外連絡員）ニ面會シ其ノ指示ニヨリ約十日間同地ニ滞在中
鄭秉旭ノ紹介ニヨリ同様共產大學派遣留學生トシテ當時上海ニ
集合セル鄭慶昌、金輝然（女）曹龍岩、金鴻世、李永祚、金燦
基、高國泰（女）等總數名（氏名記憶セスト稱ス）ト初メテ會
見シタリ而シテ一行ハ同年十月中旬頃鄭秉旭ノ案内ニ依リ露國
貨物汽船（船名不詳）ニ無賃乗船シ十月下旬浦鹽ニ直行到着セ
リ

朴 長 松

朴憲永ノ指示ニ從ヒ何等個人的手續ヲ執ルコト無ク大正十四年
十月十五日頃京城出發釜山門司長崎經由上海ニ至リ鄭秉旭ヲ訪
13

問シ同人ノ案内ニテ支那人旅館ニ七、八月間滞在前記權五稷等
ト共ニ上海出發浦鹽ニ向ヒタリ

而シテ上海出發ノ際朝鮮人ニシテ年令四十歳位ノ肥滿セル人物
ノ見込アリ同人ヨリ激勸的挨拶ヲ受ケタルカ其ノ後同人ハ呂運
亨ナリシコト判明セリ上海出發ノ際ハ埠頭ヨリ密カニ露國小蒸
氣船ニテ本船ニ乗リ移リタルカ同船ニ乗込ミタル乘客ハ全部露
國留學生ノミニシテ鮮人留學生十一、二名ノ他全部支那人學生
ナリシト云フ

ハ 高 四 察

大正十四年十月初旬京城出發釜山ヨリ平安丸ニテ上海ニ直行上
陸シタルカ埠頭ニ出迎セシ鄭秉旭ト合言葉タル暗號（五號）ヲ
以テ意ヲ通シ鄭秉旭ノ寓居タル某支那人宅ニ約二週間滞在シタ

ルカ十月下旬歸船到着ト共ニ權五稷、李永祚、金應基等一行十
數名ト共ニ鄭秉旭ノ引率ノ下ニ乗船約五日ノ後十一月初旬浦鹽
ニ到着シタルカ豫テ手續完了シアリタルモノノ如ク何等ノ手續
ヲ要セス浦鹽ニ上陸セリ而シテ船中ニ於テハ男女別室ニテ高四
察ハ慶北出身金輝星（本名金明時）及支那人女ト同室セラレ且
ツ金丹治ヨリ貰ヒ受ケタル旅費ノ殘金八圓ハ乗船ノ際鄭秉旭ニ
手交シタル爲船中無一文ナリシモ船賃及食費等ハ全部無料ナリ
シヲ以テ何等ノ痛痒ヲ感セザリシト云フ

ニ李 永 祚

大正十四年十月初旬京城ヲ出發釜山下關長崎經由上海ニ至リ豫
テ權五稷ヨリ指示セラレタル通り出迎セシ鄭秉旭ニ對シ暗號「
〇〇〇一」ヲ以テ同志タルノ意ヲ通シ鄭ノ案内ニテ上海佛租界

14

ニ入り鄭ヨリ指定セラレタル處ニ於テ約一週間滞在其間屢々留
學生トシテ同棲上海滞在中ノモノト會シ及呂運亨ヨリ屢々本名
等ヲ來訪囑問セルコトアルノミナラス十月下旬上海出發前夜同
人ハ之等留學生一行ヲ料理店ニ招待餐應シタルカ其ノ翌日（十
月下旬）鄭秉旭引率ノ下ニ露國汽船ニ乗船約一週間後浦鹽ニ到
着何等ノ手續ヲ要セス總テ鄭秉旭ノ世話ニテ上陸莫斯科ニ向ヒ
出發セリ

ホ金 應 基

大正十四年九月末京城出發安東縣ヨリ日本商船ニ乗り大連ニ寄
港約一週間ニシテ上海ニ到着豫テ朴憲永ヨリノ指示ニヨリ暗號
「〇〇二」ナル語ヲ使用シテ鄭秉旭ニ對シ同志タルノ意ヲ通シ
テ面會鄭ノ案内ニヨリテ某支那人ノ間借ヲ爲スコトトナリ京城

ヨリ同道シ來リタル京城府以下不詳留學賢（當二十一年位）ト
共ニ約一ヶ月間市内見物等ヲ爲シ何等爲スコトナク滞在シ居タ
リ京畿道江華島出身鄭慶昌（當時二十四五年）等他七、八名ト
共ニ鄭兼旭引率無料ニテ露船ニ乗込ミ支那留學生約百名ト合シ
同年十月下旬上海ヲ出發約一週間ノ後浦鹽ニ到着シタルカ何等
ノ手續ヲ要セス豫テ連絡アリタルモノノ類ク一露國人ノ出迎ヘ
ヲ受ケ列車中ニ一泊ノ後莫斯科ニ向ケ出發セリ

ヘ朱 青 松

大正十二年九月在關島私立東興中學在學當時朴允世ヨリ在莫斯科
科共產大學入學ノ勸誘ヲ受ケ又當時關島ニ於ケル本名ノ身邊危
險ニ類シタルヲ以テ朴允世ニ同道シ徒步ニテ關島出發浦鹽ニ向
ヒタルカ露支國境通過ノ際露官憲ヨリ査問ヲ受ケタルモ學生風

15

ヲ爲シ居リタルヲ以テ無事通過スルヲ得關島出發後五日ニシテ
浦鹽ニ到着セリ

ト安 乘 珍

大正十三年六月高成昌ト共ニ京城ヲ出發會率龍井ヲ經テ徒步露
領ニ入りタルモ途中差シタル査問等モ受ケル事ナク浦鹽ニ到着
シ本名ノ在上海當時亡兄ノ知己ニシテ且ツ本名トモ面識アル共
産主義者趙勳ヲ新韓村ニ訪ヒ入露ヲ告ケテ入學紹介方ヲ依頼シ
文學ヲ希望スル旨ヲ述ヘタルニ文學ノ研究ハ語學ニ精熟セサル
可ラサルヲ以テ入學困難ナルモ共產大學ハ通譯附ニテ教授シ左
シタル露語ノ必要モ無ク同校ニ入學スヘシト勸誘セラレタルヲ
以テ之カ入學盡力方ヲ依頼シタル結果趙勳ハ同人及高成昌ノ二
名ヲ露西亞共產黨沿海州道委員會ニ紹介シテ共產大學入學紹介

狀ヲ貰ヒ受ケ趙勳ト同道莫斯科ニ向ヒタリ

チ趙 衆 昌

本名入露ノ動機ハ商業ヲ管マムトシテ入露シタルモノニシテモ
スコロニ至ル迄ノ経路前項記載ノ通り

3、留學生トシテ行ヲ共ニシタル者ノ動靜

イ 權 五 稜

行ヲ共ニセシ鄭慶昌、金輝然（女）曹龍岩、金鴻世、李永祚、
金應基、高四葵（女）等トハ上海ニ於テ鄭秉旭ヨリ紹介サレテ
函頭ヲ得タルモ始メテノ入露ナリシ爲各人共行先ノ事ヲ案シ其
ノ行動何レモ神妙ニシテ總テ鄭秉旭ノ命令ニテ終始行動ヲ共ニ
シ特記スヘキモノナカリシト云フ

口 村 長 松

16

上海ヲ出發乗船ニ際シ鄭秉旭ノ引率セシ派遣留學生十數名アリ
當時何レモ初對面ニシテ氏名ノ判明セルモノナク共產大學入學
後判明セル者ハ

露 名	鮮 名	年 令
ペトロフ	李 永 祚	二十年位
米ストコフ	權 五 稜	
シベチローバ（女）	金 明 時	二十年位
ベンコフ	鄭 慶 昌	二十餘年
ソベスキー	鄭 秉 旭	二十年位
ズナメンスキー	金 應 基	廿五六年位
コルスキー	朴 容 善	
スレサロフ	姜 翰	二十年位

シベリスカヤ(女) 高明子 二十年位

クロモフ 李建鎬、李春 二十年位

ゼムリー 朴長松 廿八年位

バトロコフ 安相勳 三十年位

ニシテ埠頭迄氏名不詳(四十年位)ノ肥満セシ鮮人男(呂運亨ナラム)ノ見送ヲ受ケ埠頭ニテ露國小蒸汽船ニ密カニ乗船シ港外ニ繋留シアル露國本船ニ乗移リタル處鮮人一行ノ外中國人留學生約百名ト同船浦盤ニ出發セリ船中鮮人側ハ鄭秉旭ノ命ニ從ヒ行動特異ノモノナク約一週間ノ後夕刻浦盤ニ到着シタルモ當日ハ上陸時間ヲ經過セリトテ上陸スルヲ得ス船内ニテ一泊翌日夕刻ニ至リ漸ク上陸スルヲ得タリ而シテ一行ノ服装ハ何レモ學生服オーパーヲ所持シ居タリ

ハ高 四 察

行ヲ共ニセシハ鮮人十餘名支那人多數アリ鮮人ノ一行中現ニ記憶セルハ權五稷金輝星鄭秉旭金應基李永祚等ニシテ當初上海ヲ出發スルニ當リ鄭秉旭ヨリ相互本籍住所氏名等ヲ明サザル様特ニ注意セシ處アリタルヲ以テ本名モ余貞種(本籍大邱)ト偽名シ居リ船中ニ於テハ支那婦人ト同席シ居タル關係上他ノ鮮人ト會談スルカ如キ機會無カリシモ鄭秉旭ノミハ常ニ食事ヲ運搬スル等種々慰撫シ居タリ

ニ李 永 祚

京城出發ノ際ハ單獨ナリシモ上海ニ到着セシ際ハ既ニ多數派遣留學生滞在シ居リ出發ニ際シ同行セシモノニシテ記憶セルモノハ

慶南東萊郡以下不詳

別名 秋山 露名 コオルズキ

朴 光 一

咸北鹽城郡以下不詳

別名 崔剛 露名 セムルリン

朴 長 松

江原道襄陽以下不詳

別名 李光旭 露名 グロムオプ

李 建 鎭

本籍不詳

別名 洪景天 露名 シルネサロフ

姜 漢

慶北安東郡 豐西面佳谷洞

別名 金一波 露名 ポストコフ

慶北安東郡吉安面以下不詳

露名 バダウコフ

安 相 勳

平北道以下不詳

露名 ソーベシキ

鄭 秉 旭

京畿道仁川府以下不詳

別名 千昌一 露名 ペンコフ

鄭 慶 昌

京畿道江華郡以下不詳

露名 メシコフ

曹 龍 岩

忠南以下不詳

別名 金貞柱

露名 シベリズカヤ

(女) 高 明 子

慶南馬山府以下不詳

露名 シベチローバ

(女) 金 命 時

咸北會寧以下不詳

別名 朱東化

露名 トラットロフ

張 道 明

慶北禮泉郡以下不詳

露名 ツナメンスキー

金 應 基

以上十三名ニ本名ヲ加ヘ一行ハ鄭秉旭ノ指揮ノ下ニ露船ニ便乗
浦鹽ニ到着セルモ途中特記事項ナシ而シテ其後新聞紙上ニヨリ
大正十四年度ノ鮮人派遣留學生ハ二十一名アリシ事ヲ知レルモ
其ノ氏名等記憶セス

亦余 應 基

上海到着後京城ヨリ同道セシ京城府以下不詳劉準賢(當二十
二年位)ト共ニ約一ヶ月間無爲徒食市内見物等ヲ爲シ居タルモ
其後京畿道江華島出身鄭慶昌(當時二十四五年位)外數名(氏
名等記憶セス)ト共ニ鄭秉旭ノ斡旋ニテ露國商船ニ無料乗船支
那人留學生約百餘名ト共ニ大正十四年十月下旬上海出發浦鹽ニ

到着シタルモ途中特記スヘキモノナシ

へ朱 青 松

共產黨員朴允世ト共ニ身邊ノ危險ヲ脱セムガ爲メ浦鹽ニ至リ浦
鹽ニ於テ朴允世ノ紹介ニテ沿海州執行委員會高麗部ノ推薦ニヨ
リ入學セシモノニシテ前項記載ノ通り

ト安 秉 珍

本名ハ新義州出身高成昌ト共ニ入露シ沿海州新韓村趙勳ニ韓族
方ヲ依頼シテ共產大學ニ入學シタルモノニシテ該當事項ナク右
ニ至ル迄ノ経路前項記載ノ通り

チ趙 彙 昌

本名ハ入露後チタニ於テ數年間商業ヲ營ミ後動亂ノ爲追ハレテ
莫斯科ニ至リ同地ニ於テ生活窮シタル結果東洋勢力共共產大

學ニ入學シタルモノニシテ該當事項無し

三、入露後ノ狀況

1、入露後莫斯科到着迄ノ狀況

イ、權 五 稷

大正十四年十月下旬一行ノ浦鹽ニ到着スルヤ埠頭ニ氏名不詳一露國人出迎ヘ鄭秉旭ト露語ニテ會談シタル後直チニ同人ノ案内ニテ停車場ニ到リ數時間待合セ莫斯科行直行列車ニ乗車シタルモ當日發車セザリシ爲メ車中ニテ一夜ヲ明カシ翌日同地出發十一月二十日前後日暮莫斯科ニ到着セリ停車場ニハ露人氏名不詳ノ共產大學事務局員一名及鮮人通譯氏名不詳一名ガ一行ヲ出迎ヘ電車ニテモスコ市ストラナヤプロサシ所在東方勢力者共產大學ニ連行直チニ宿舍ニ收容配宿サレタリ

ロ、朴 長 松

權五稷ノ供述ニ同シ

ハ、高 四 察

浦鹽ニ到着後無料ニテ汽車ニ乗リタルカ本名ハ女ナルヲ以テ船中ニ於ケルト同様支那人女子留學生約二十名及同行セル鮮人女金輝星ト共ニ同車シ正午發出發途中バイカル湖畔ノ某停車場ニ約三十分間停車シタル時間ヲ利用シ十分餘リ下車鄭秉旭ノ薦ニヨリバイカル湖ノ見物ヲ爲シタルコトアリ列車中ニ於テハ鄭秉旭ハ時々訪問シ來リシモ他ノ鮮人ニハ一回モ遇ヒタル事無ク同席シ居タル支那人女等ハ言語不通ノ爲メ充分ナル會語モ爲シ得ス金輝星ト最モ親ミタリ列車中ニ於ケル食事パン鶏肉魚肉等ヲ分配シ居タルカ露國ニ於テ給與シタルヤ或ハ引率者ニ於テ繼メテ購入シタルヤハ判明セス而シテ約二週間餘ニシテ正午頃モス

コ―到着停車場食堂ニ於テ登食ヲ喫シ共產大學ヨリ出迎ハ鮮人
通譯崔鳳禹ノ案内ニテ自動車ニ乗り學校ニ向ヒ密宿舍ニ分宿セ
ニ李 永 祚

當時浦鹽莫斯科間ノ汽車ハ頗ル徐行ニシテ一停車場ニ於テ一時
間以上モ停車シ或ハ燃料ハ石炭ニ非スシテ油ヲ燃シ居ルヲ以テ
途中燃料ノ補給ハ相當長時間ヲ要シ二週間餘ニシテ莫斯科ニ到
着途中ニ於ケル食事等ハ鄭秉旭ニ於テ全部ヲ代表購買シ居リ莫
斯科到着後ハ直チニ東洋努力者大學ニ連行サレ學生候補トシテ
密宿舍ニ分宿セリ

金 應 基

權五稷ノ供述ニ同シ

へ朱 青 松

大正十二年九月浦鹽到着後朴允世ノ紹介ニヨリ露西亞共產黨沿
海州執行委員會高麗部ノ推薦ニテ共產大學ニ入學スルコトトナ
リタルカ旅費其他ハ高麗部ヨリ支給ヲ受ケ（一行十三名ヲ代表
韓ミハイルニ於テ一括貰ヒ受ケ總テノ會計ヲ本名ニ於テ爲シタ
ル爲旅費額不明）

咸北富寧郡出身 朴 允 世

浦鹽出身 韓ミハイル

咸北明川出身 李 鍾 一

本籍不詳 金 秉 律

間島東興中學生 李 基 石

同 金 秉 國

本籍不詳 玄 七 鍾

本籍不詳

金奎烈

浦鹽出身

(女)

朴フーニヤ

金奎烈ノ妻(女)

朴貞淑

本籍不詳

劉スーラ

同

吳昌宇

一行十二名ト共ニ各自無賃乗車券ノ交附ヲ受ケ浦鹽ヲ出發約二週間後莫斯科ニ到着セリ途中各自三等列車ナリシモ露國三等列車ハ寢臺式ニシテ三段制トナリ上中段ハ原則トシテ一人下段ハ乗客ノ少ナキ時ニ限り一人ニテ占領シ得ル規定ニシテ食事等モ各驛ニ賣店アリ此處ニテ所要セリ警察官憲ヨリ各地ニ於テ調査セラレタルモ高麗都ヨリ手交セラレシ證明書ヲ指示通過セリ

而シテ本一行中朝鮮ヨリ留學セシモノモアリタルモ大部分ハ浦鹽ニ於テ推薦セラレタルモノナリト云フ

ト安秉珍

入露後浦鹽新韓村ニ趙勳ヲ訪ヒ共產大學入學方紹介ヲ依頼シ沿海州道委員會ノ共產大學入學紹介狀ヲ貰ヒ受ケ趙勳ト同道(高成昌ハ手續ノ關係ニテ少シク遅レタリ)鐵路莫斯科ニ向ヒタリ而シテ露領旅行ニ關シテハ旅行券ヲ必要トシ殊ニ大正十四年度留學者ヨリハ細密ナル一定ノ推薦手續ヲ要シタルモ當時ノ留學生ハ只道委員會ニ於テ認メタル黨員ノ紹介アリタルノミニテ道委員會ノ紹介狀ヲ下附シ居タリ莫斯科到着後數日間旅館ニ滞在シタルモ其間趙勳ニ於テ入學交渉ヲ爲シ許可セラレ寄宿舎ニ入

予趙榮昌

本名ハ大正七年商業ヲ爲ス目的ニテハルビンヨリ滿州里經由チ
タニ到リ同地ニ於テ約四年間煙草行商ヲ爲シ居タルモ當時赤白
軍ノ革命動亂場トナリタル爲メモスコニ避難同地ニ於テ約一
年間煙草行商ヲ爲シ居タリ

2、入學手續

イ 權五 校

入學ノ手續トシテ朝鮮共產黨ヨリノ留學生派遣推薦狀ヲ鄭秉旭
ニ於テ一括提出シ全部ノ願書モ亦鄭ニ於テ同校通譯ト共ニ之ヲ
作成スル等一切ノ手續ヲ了シ莫斯科到着翌日共產大學々監クリ
モビヨリ口頭試験ヲ受ケタルカ其ノ問題次ノ如シ
1 朝鮮ニ於テ社會運動ニ從事セシ年數及本名ノ經歷

24

2 身分及職業

3 學歷ノ程度

以上ノ口頭試験ヲ受ケタル後身體検査ヲ行ヒ合格トシテ入學セ
シメラル

口朴長松

寄宿舎ニ收容セラレシ翌日學校ヨリ入學願書ヲ貰ヒ通譯ニ於テ
代書提出セリ願書記載事項大要次ノ如シ

資産ノ程度

兵役義務ノ有無

學歷家庭ノ狀況

國籍本籍氏名年令

右願書ヲ提出シタル後學監(韓人)ヨリ通譯附ニテ大要左記ノ

如キ口頭試験ヲ受ク

問 何人ノ推薦ニテ派遣セラレタルヤ

答 朝鮮高麗共產青年會員朴憲永ノ推薦ニテ派遣セラル

問 資産ノ有無

答 自作機ニシテ生活上不自由ナシ

問 學歷如何

答 延禧專問學校中途退學セリ

問 英語ニテ話シ得ルヤ

答 少シク出來ル

問 朝鮮在住中讀書ノ種類如何

答 日本ノ著述唯物史觀ヲ讀ム

以上ノ通り口頭試験ヲ終リタル後身體検査ヲ受ケタルモ主トシ

25

テ傳染性疾患ノ有無殊ニ梅毒トラホーム等ヲ詳細検査ヲ爲シタル後翌日合格シタリトテ學生證明書ノ下附ヲ受ケ入學スルコトトナレリ

ハ 高 四 寮

寄宿舎收容ニ先立チ先ツピリスカヤト言フ署名ヲ教師ヨリ授ケラレ寄宿舎ノ配當寢具其他一切ノ支給ヲ受ケ鮮服ヲ捨テ洋服ヲ爲シ其他一週間内ニ身體検査(三日間ニテ終リ主トシテ上身ノ検査)ヲ受ケ履歷書ヲ作成提出シタルモ記載事項中團體關係ハ京城女子青年同盟會員トノミ記載シ女性同友會ハ入會後三ヶ月ニ滿タザリシヲ以テ記載セザリシト云フ以上總準備ヲ終リ學生票ノ交附ヲ受ケタル卡特ニ入學試験若シクハ誓約書ヲ提出シタル等ノ事ナシ

二李永祚

留學生
留學ニ行莫斯科到着後東方勞力者共產大學ニ案内サレ直チニ學生候補トシテ寄宿舎ニ收容其後數日ニシテ國際共產青年會員朝鮮人曹勳ヨリ學校當局ニ對シ正式紹介ヲ受ケ曹勳ノ指導ニテ履歴書ヲ作成提出直チニ身體検査ヲ受ケ口頭試問ヲ受ケタルカ試問事項トシテソヴエート以治、社會主義等ニ就キテ應問サレタルカ別ニ回答拙劣ナリトテ落第サルモノモ無ク試験終了大正十四年中ハ何等ノ授業ヲ爲サス從來ノ學生ヲ待チ大正十五年一月トナリテ一同授業ヲ受クルコトナレリ

水金應基

學校到着後直チニ夕食ヲ喫シ寢臺毛布(一枚)等ノ配給ヲ受ケ其ノ配給ニ就キタルカ室内ニハ暖房裝置ヲ施シアリタルモ毛布

一枚ノ寢具ニテハ嚴寒中東洋人トシテハ耐サル痛痒ヲ感シタリ入學時ハ多數ノ留學生ヲ收容シ相當混雜スルヲ以テ容易ニ入學ノ準備終了セス入夜後二三日間ハ何等爲スコト無ク經過身體検査ヲ受ケタルカ全身ニ亘リ細密ナル検査アリシモ特ニ肺病神經病花柳病等ニ就キテハ嚴重ヲ極メ簡單ナル口述試験(民族主義ト社會主義ノ差異如何ナル書籍ヲ購讀シ居ルヤ等)ヲ終ヘ家庭ノ狀況、思想團體若シクハ青年會等ニ加入ノ有無等ヲ問ハレタル本名ハ郷里ニ於テ相當ノ資産ヲ有シ且ツ畜産組合書記ヲ勤メ居タル履歷アリ日本語ヲ克ク解シタルヲ以テ多少危險視セラレタルモノノ如ク其ノ質問等ハ特ニ詳細ナリシト云フ以上ノ如ク一通リノ入學手續ヲ終ヘ約十日間ヲ經過ノ後學生票ノ交附ヲ受ケ入學スルコトナレリ

へ朱 青 松

莫斯科到着後東方勞力者共產大學ニ至リ浦鹽執行委員會部ヨリ
特參セシ一件書類ヲ提出シタル處直チニ新入學生ノ寄宿舎ニ收
容セラレ翌日身体検査ヲ受ケタル後身体合格證明ノ下附ヲ受ク
検査ハ約三日間ニ亘リ嚴重ヲ極メタリ

其後三日經過後口頭試問トシテ朝鮮革命ノ現状及運動ノ進展、
身上ニ關スル事項並ニマルクス主義ニ對スル諸問題等ノ應問ヲ
受ケタルカ翌日校長秘書ヨリ呼出サレ合格セシ旨通告アリテ學
生票ヲ交附サレ入學ヲ許可セラレタリ

ト安 秉 珍

浦鹽共產黨員趙勳ト同行莫斯科ニ到着數日間旅館ニ滞在其間趙
勳ニ於テ總テノ入學手續ヲ完了シタルモノノ如ク入學許可トナ

チ趙 彙 昌

リタリトテ寄宿舎ニ收容セラルル事トナレリ其後履歷書ヲ提出
身体検査ヲ受ケタルノミニシテ何等試験等ヲ受クル事無ク入學
ヲ許可セラレタリ

本名ハ大正十年頃デタニ於テ商業ニ從事革命ノ爲難ヲ逃レテ莫
斯科ニ至リ同 地ニ於テ煙草行商ニ從事中生活困難ニ陥リタルヲ
以テ同地朝鮮國民會長金イワンニ對シ求職方ヲ依頼シタル處通
當ナル就職口無キヲ以テ共產大學入學ヲ勸誘セラレテ之ヲ依頼
シタル處其ノ國籍氏名生年月日經歷及露語熟達ノ程度ヲ聴取セ
ラレタルノミニシテ學校當局ヨリハ何等ノ試験ヲ受クルコト無
ク身体検査アリタルノミニテ金イワンノ保證ニテ共產大學第二
同生トシテ入學シタリ

三、入學後ノ狀況

イ、學資及起居ノ狀況

イ、權五稷

學用品ヲ始メ衣食等總テ必要ナルモノハ學校當局ヨリ現品ニテ支給シ一ヶ年服一着オーバー一着（羅紗或ハサージ）靴一足宛ヲ支給シ其他ニ小使トシテ一名宛邦貨ニテ月十圓位ノ支給ヲ受ケ食物ハ朝食パン、バター菜羹食パン、スープ或ハ飯カツレツ晚ハパン菜、カツレツ等ニシテ毎日午前八時起床洗面後体操ヲ爲シタル後朝食ヲ喫シ午後十二時就寢ス

學生ハ全部學校寄宿舎生活ニシテ外泊ヲ許サス一室ニハ四名乃至八名ニシテ語學ヲ熟達セシムル爲メト稱シ各室毎ニ露人若干ヲ雜居セシム而シテ室ニハ各人ノ選舉セシ室長（一名）ヲシテ

28

室員ヲ監督セシメ居レリ寄宿舎ノ規則ハ室内喫煙禁止、定期起床、定期食事無用出入禁止、電話禁止、寄宿舎内ニ於ケル清潔保持等ヲ學ケ居レリ

ロ、朴長松

學資ハ全部學校ヨリ支給サレ衣食等モ寄宿舎ニ收容給與ヲ受ケ衣服ハ年一着ニシテ現品支給ヲ爲シ或ハ購買券ヲ手交ス購買券ノ支給ヲ受ケシ者ハ任意ニ市中ニ於テ金額相當ノ現物ヲ受ケ書籍及學用品等ハ全部學校ヨリ貸與或ハ給與サレ外ニ一ヶ月一人宛十圓ノ小使金ヲ支給サル

寄宿舎ニハ一室四人乃至十餘名ニシテ各國人ト混合收容サレ室長一名ヲ互選シ總テノ監督ヲ爲サシメ舍監等ハ別ニ無ク寄宿舎ノ建物ヲ管理スルモノ一名居ルノミナリ而シテ舍則トシテ室内

ニ於ケル喫煙禁止、午前七時三十分起床食事ハ食堂ニ於テ就寢
午後十二時室内清潔保持等嚴格ニアラス殆ント無規律狀態ニシ
テ朝食バター、パン、朝食パン、スープレ外一件晩飯、パン等外
一皿ニシテ沐浴ハ寄宿舎内ニ其設備無ク一週一回宛學校ヨリ湯
札ヲ支給シ市内浴場ニテ入浴セシメアリシモ其後ニ至リ自由ニ
外出セシメ居レリ

寄宿舎生ハ外來者トノ面會又ハ電話等ハ禁止サレ居タリ

ハ・高 四 寮

學資トシテ現金ヲ支給セス書籍（圖書館藏書）ペン、インク、
鉛筆、消ゴム、ノート（一ヶ月ペン先二本ペン軸一本鉛筆一本
）等ハ現品ノ支給ヲ受ケ其他日用品代トシテ毎月十五留ヲ支給
サレソレニテ石鹸、齒磨粉、化粧品、靴下等ヲ買ヒ被服雜具等

ハ凡テ學校ヨリ裕福ニ支給サレ毎日午前七時振鈴ト共ニ起床洗
面後校庭附近所在公園ニ學生全部集合約三十分間露人教師ノ號
令ニテ体操ヲ爲シ終了ト共ニ食堂ニ至ル朝食ハ午前八時ヨリ十
時迄、夕食ハ午後一時ヨリ三時迄、夕食ハ午後六時ヨリ八時迄ノ間
ニ於テ喫シタ食後午後十一時迄ハ自習時間ニシテ各自圖書館ニ
テ學課ノ研究ヲ爲シ十一時振鈴ト共ニ就寢ス入浴ハ各自任意ナ
ルモ校內設備ナク市内ノ浴場ニ行クモノナルカ一週間一回學校
ヨリ入浴券（一圓五十錢）ヲ支給ス食事ハ主トシテ朝食パン、
バター（以上主食）卵蜂蜜等、夕食ハスープ、カツレツ、ライス
カレー漬物等、夕食ハライスカレー、パン等ニシテ各食共紅茶、
コーヒー等ヲ支給セラル

寄宿舎ハ二棟アリテ煉瓦造四階建ニテ一棟ハ露國人他ハ外國人

ニシテ男女ハ部屋ニヨリテ區別ス各室ハ大小ニヨリ二名乃至七八名ヲ收容シ其中ニ房長ヲ置キ總テノ責任ヲ負擔セシメ校内ニ於ケル娛樂機關トシテ俱樂部アリ日曜祭日（革命紀念日、メイデー、レーニン紀念日、國際青年デー）等ニハ活動寫眞ヲ爲シ（日曜ノミ）祭日ニハ市中ニ於テ大示威運動ヲ爲スモ外國人ハ參加セス寄宿舎生活ハ自由ヲ尊ヒ規律ニ拘束セラルル事極メテ少シ

二、李永祥

入學ヲ許可セラレタルモノハ學校ヨリ學費カードノ交附ヲ受ケ之ヲ以テ食券其他總テ必要品ノ交附ヲ受クルコトナリ被服其他學用品一切ハ學校ヨリ現品ニテ支給セラルル外現金十圓宛毎月交附ヲ受クルヲ以テ何等不自由無ク寄宿舎ハ部屋ノ大小ニヨ

リ二人乃至十數名收容シ居レルカ設備等モ完備シ居レリ

（大体ニ於テ前三名ノ供述ト一致スルヲ以テ詳細ハ省略）

水、金、應、基

書籍類ハ直接圖書館ノ藏書ヲ貸與シ雜記帳、ペン、鉛筆等ノ文具ハ必要ニ應シ現品ニテ支給シ其ノ外ニ日用品代トシテ當時毎月六留ヲ支給シ居タルカ之ニテ日用品參考書其他雜費ニ充當スルモノナルカ六留ニテハ毎月苦痛ヲ感シ居レリ其他帽子（烏打）洋服（夏ハ上衣ノミヲ變更シ下ハ春夏秋冬ヲ通シ羅紗制ノ粗雜ナルモノヲ用フ背廣服ナリ）靴、オーバー等ヲ一年ニ一着宛支給ス

寄宿舎ハ學校内ニアリテ講堂ヨリ數町ヲ距テ、二棟アリ一棟ハ四階建ニシテ約七百名ヲ收容シ得ヘク他ハ三階建ニシテ三、四

百名ノ收容ヲ爲シ得ルヲ以テ常ニ千名内外ノ生徒ヲ收容シ居レ
リ講堂ハ四階一棟ニシテ多數ノ室アリ其他事務室、圖書館、病
院、俱樂部等建物アリ其ノ區域頗ル宏大ナリ而シテ生徒全部ハ
寄宿舎ニ收容シアルモ男女別室ト爲シ各國民族混合ナルモ各室
ハ其ノ大小ニヨリ四名乃至十餘名ヲ同室セシメ各室ニ室長ヲ置
キテ責任ヲ負擔セシメ學校ヨリハ時々職員ヲ派遣シ規律等ノ監
視ヲ爲サシム其他別ニ夫婦ノミヲ收容シタル寄宿舎アリ風儀宜
シカラス殊ニトルコベルシヤ等ノ留學生ニ於テ甚タシ
食事ハ主トシテパン、バター、スープ、果物等ニシテ一週二三
回ハ飯ヲ與フ毎朝七時起床ノ規定アルモ多クハ八時乃至九時頃
起床スルヲ常トシ起床後公園ニ集合体操スルノ規定アルモ大部
分ハ怠リテ出場スルモノナク午前十一時頃迄ノ間ニ朝食ヲ喫シ

課業ニ從事スルモノナルカー一學年ハ午前十一時ヨリ午後五時迄
二年以上ハ各自ノ研究ニ任スルモノナルヲ以テ一定シ居ラス晝
食ハ午後一時ヨリ同三時迄ノ間夕食ハ午後六時ヨリ八時迄ノ間
ニ終リ其後ハ各人ノ自由ニヨリ俱樂部或ハ圖書館ニ於テ過シ十
二時頃就寢ス學生中大多數ハ露國人ニシテ勞働者農民等多ク外
國人(露以外)ハ二百名位ニシテ支那人ハ其ノ約半數ヲ占メヒ
リツピン、蒙古等之ニ次キベルシヤ、トルコ、印度、朝鮮、日
本、メキシコ等アルモ概シテ支那人ハ最も眞剣ナリ
日曜祭日等ハ外出自由ニシテ活動寫眞、ダンス等ヲ見物シ又ハ
校內クラブニ於テ各自ダンス音楽等ヲ爲スモノアリ

へ、朱 青 松

衣服寢具學用品及教科書等總テ必要品ハ學校ヨリ現品ヲ以テ支

給サレ其他ニ小使錢トシテ一ヶ月十圓宛ノ支給ヲ受ケ寄宿舎ニハ多數ノ室アリテ各室ニハ四名乃至十名起居シ別ニ夫婦者ハ夫婦生活ヲ爲スヘク別準備ノ室アリ午前七時振鈴ト共ニ起床十一時消燈後就寢ス食事ハ全部食堂ニ於テ朝食ハ午前八時ヨリ九時迄ノ間晝ハ午後一時ヨリ二時迄ノ間夕食ハ午後六時ヨリ七時迄ノ間ニ於テ喫シ學校内娛樂機關トシテ俱樂部アリ其ノ設備完全ニシテ何時ニテモ解放シアリ出入自由ナリ

ト、安、愛、珍

衣食住ハ勿論學用品一切及小使金迄全部支給セラル

チ、趙、葉、昌

入學後ハ大學内ノ寄宿舎ニ起居シ食費及一切學費衣服等ハ學校ノ負擔トシテ何レモ現品ヲ以テ支給シ現金ハ一文モ支給セス入

學後ハ毎日午前九時ヨリ午后三時又ハ四時迄授業シ又練習トシテ毎日曜日ニハ莫斯科科譯ニ於テ薪ノ積下シ等ヲ爲シタリ

2 共產大學ノ内容

イ、權、五、稷

東方勢力者共產大學ハ露國政府ノ國營ニシテ當時ノ學長ハスミヤツキニシテ教授ハ露人ノミニシテ約百名餘居リ通譯ハ日本人露名ワープ(本名不詳)一名及鮮人通譯吳カイナル者アリ生徒ハ日本人約十餘名及鮮人二十餘名其他ハ主トシテ露國人合計約千餘名ニシテ教材ハ主トシテ共產革命運動ノ政略方針等赤化運動者養成ニ重キヲ置キ國立大學ナルモ國際共產黨ノ指導ヲ受ケ其ノ經費等モ國際共產黨ヨリ支出スルモノノ如ク外國人ノ入學許否等ニ關シテモ國際共產黨ノ指示ヲ受ケ居ルモノナリ

口、朴 長 松

莫斯科ニハスベトロー共產大學外四校アリ内西方勢力者共產大學ハ歐洲各國人ノ學生ノミヲ收容シテ共產運動者ノ養成ヲ爲シ東方勢力者共產大學ハ東方民族ノミヲ收容シ所謂東方ノ共產革命運動ノ爲メ之カ指導者ヲ養成セムトスルモノニシテソヴエイト聯邦共和國々立ナルモ國際共產黨及國際共產青年會ノ關係指示ヲ受ケ入學者ハ其ノ民族ノ黨推薦ノ留學生ニ非ラサレハ入學ヲ許可セサルコトトナリ居レリ

教授ハ百名近ク居ルモ重ニ猶太人ニシテ學生數約千名位ニシテ露國人其ノ大部分ヲ占メ日本人學生十餘名鮮人學生約三十名中國民學生百餘名ニシテ教授ヲ以テ組織セル教授會ハ學生ニ對スル教授方法ノ研究ヲ爲シ學生ヲ以テ組織セル學生會ハ班細胞ヲ

有シ學生等ノ居室飲食及教授ニ對スル希望並ニ學校當局ニ對スル要求希望等ヲ申込ミ之カ實行ヲ圖ル機關ニシテ校内ニハ露西亞共產黨支部アリ露人學生ニシテ黨員タルモノヲ以テ組織シ黨的訓練ヲ受ケツツアリ他國人ニシテ之ニ入黨セムトスルモノハ黨員五名ノ保證ヲ要シ入黨手續困難ナルノミナラス彼等ハ鮮人ヲインテリゲンチヤナリトシ入黨ヲ拒ミ居レリ尙校内ニ職業會ト稱スルモノアリ學生ノ大部分會員ニシテ校内學生會ノ役割ト同一役割ヲ爲ス

其他各國學生別ニ研究會ヲ組織シ民族的情勢ニ適合スル實際問題ヲ討論シ理論ノ展開訓練ヲ爲サシメツツアリ鮮人學生モ之ヲ組織シ新聞雜誌等ニ依リ討論研究ヲ爲シツツアリ而シテ鮮内ニ於ケル事情ハ莫斯科居住鮮人金某宛時折東亞日報ヲ送附シ來ル

ヲ借りテ討議資料ト爲シツツアリタリ
學校内ニ寄宿舎圖書室講堂俱樂部食堂ノ設備アリ俱樂部ニテハ
演藝活動寫眞音樂等ヲ爲シ學生ハ自由ニ之カ利用ヲ爲スコトヲ
得

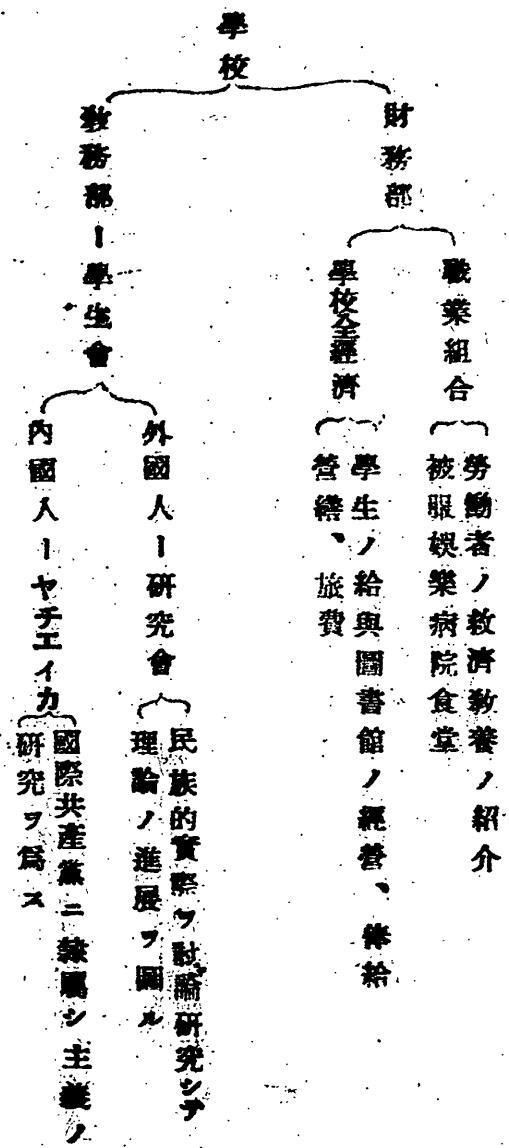
ハ、高 四 察

莫斯科ニハ東方勢力者共產大學、西方勢力者共產大學、スベツ
ロツプ共產大學、エンゲルスマルクス經濟大學等共產主義的ノ
大學アリ東方勢力者共產大學ハ極東居住露人及亞細亞人ノミヲ
收容シロシア人日本人（當時五、六人）鮮人、印度人、シヤム
人、蒙古人、支那人（支那人ハ現在主トシテ孫逸仙大學ニ收容
シツツアリ）トルコ人、メキシコ人等多種民族學生約壹千名ヲ
抱擁シ三年制度ニシテ一年ハ約七、八組ニ分タレ各民族ヲ平等

ニ配屬シ各級ハ十七八名ヲ以テ組織シ各級ニ級長アリ本校ハ國
立ニシテ約三十名ノ教員アリ校長ノ下ニ教務主任及財政主任アリ
テ各教員ヲ其下ニ配屬シ大部分ハ他ノ學校ヲ掛持ち居レリ一
時間二圖乃至七圖ノ給料ヲ支給ス校内ニハ黨員ヲ以テヤチイエ
カヲ組織シ中央執行委員會ニ隸屬シ必要ニ應ジ黨會ヲ開催教養
ヲ爲シ或ハ黨ノ執行務ニ關シ決議ヲ爲ス而シテ右決議ハ學校内
部ノ校政ニ意見ヲ具申スルコトヲ得ルモ之カ採否ハ一ニ校長ノ
決スル處ナルカ右決議ニシテ秘密ヲ要スル以外ハ非黨員ニモ發
表スルコトアルモ極秘ノ事項ニ關シテハ非黨員タルモノノ容易
ニ窺知シ得ヘキモノニ非ス（朝鮮人留學生ハ一名モ入黨シ居ラ
ス）

尙全露職業會聯盟ニ隸屬セル細胞職業組合ナルモノアリテ學校

内部労働者（小使、巡視、炊事夫、活動寫眞技師等）ノ經濟的生活ノ研究促進ヲ圖リ一方校内ニ於テハ財務部ニ隸屬シ労働者ノ救済教養紹介等ヲ爲ス校内ノ組織系統左ノ如シ



學生ガ病氣トナリタル場合ハ校内病院ニテ無料ニテ治療セシム

二、李永祚

朴長松ノ供述ニ同シ

ホ、金應基

莫斯科ニハ東方勞力者共產大學、西方小數民族共產大學、孫逸仙中國共產大學、クルプスカヤ共產大學（レーニン歿後未亡人ノ建設セシモノニシテ國家ニテ經營ス）ノ四共產大學アリ總テ國家ノ經營ニ屬ス亞細亞人ノミヲ收容スル東方勞力者共產大學校長ハ當時ライデルト言フ者ニシテ副校長二名ノ外校長秘書ノ四名カ大學内ノ運轉ヲ爲ス教授書記事務等ヲ合シ約百名ニ達シ教授ハ總テ專攻科目ヲ受持テ各學校ヲ巡回教授ス校長ノ下ニ教務部及財政部ノ二系統ニ分レ副校長二名ニ於テ各部主任ニ任

ス學校ハ現在三學年制度（入學當時ハ豫備科ト共ニ二學年制度ナリシト云フ）ニシテ新學期ノ開始ハ初メ九月ナリシモ最近春（四月？）トナリタリト云フ一學年ハ所謂準備科ニシテ各學年末ノ進級ハ平素ノ口頭試問ノ結果ニヨリ成績不良ナルモノハ落第セシムルト共ニ退學ヲ命ス學生ハ年齡ノ制限無ク男女ノ別各國人定員等特別ノ制限ナシ

學校トロシヤ共產黨トノ關係ハ全國内ニ於ケル各官廳工場軍隊等ト同シク一個ノヤチエイカヲ形成ス他ノヤチエイカト異リ多クノ事業ヲ有セス主トシテ思想問題ヲ研究討論セシメレーニン主義ニ誘導シツツアリ又校内ニ全露職業會聯盟ニ隸屬セル職業組合ナルモノアルモ他ノ職業組合ト異リ甚タ微弱ナリ

ヘ、朱 青 松

東方勞力者共產大學ハ共產黨事務所、職業教務所、講堂寄宿舍食堂俱樂部大學附屬病院、物品供給所等アリ共產黨事務所ニテハ學校内ニ於ケル黨事務即チ黨員入退ニ關スル事項黨員ノ敬養ニ關スルモノ其他黨ニ關スル一切ノ事務ヲ取扱ヒ職員教務所ニ於テハ教授ニ關スル一切ノ事務ヲ取扱ヒ其他俱樂部食堂、寄宿舍等總テ講堂附近ニアリ頗ル便利ナリ學校内職員數百名以上ニシテ各學校ヲ兼務シ生徒數本校ノミ約千名アリ

ト、安 秉 珍

朴長松ノ供述ニ同シ

チ、趙 秉 昌

入學當時東方勞力者共產大學生ハ亞細亞露人、猶太人、支那人各五十名朝鮮人約十五名其他東方弱小民族等ヲ併セテ計三百名

餘ニシテ當時學級ノ區別無ク入學生ハ全部一室ニ於テ研究シ教員ハ共產大學ノ專任ニアラスシテ普通學校ノ教員ヲ兼任セシメテ時間教授ヲ爲シ二年生以上ハ各人ノ成績ニヨリ見込無キモノハ卒業ノ形式ヲ以テ退校セシメ居タリ

3. 朝鮮入學生ノ狀況

イ、權 五 稷

本名入學前既ニ同校ニ留學シ居リタル者ハ

沿海州

吳一カイ 三十年位

同

朱青松 二十七年位

同

(女) スーラ 三十年位

同

金炳律 三十五年

同

(女) 安義士 三十年位

同

(女) ソーニヤ 二十七八年位

等ニシテ其ノ後本名等ノ一行約十二三名入學セルモ氏名ノ判明セルモノ左ノ如シ

慶北醴泉以下不詳

譯名 スナメンスキー

慶北安東以下不詳

譯名 金應基 三十年位

慶北安東以下不詳

譯名 ペトロフ

忠清道以下不詳

李永祚 二十四年位

忠清道以下不詳

金貞祚 高明子コト

慶南馬山以下不詳

(女) 高四察 二十五年位

慶南馬山以下不詳

譯名 シベツローバ

慶南馬山以下不詳

(女) 金輝然 二十三年位

平北以下不詳

京畿道江華郡以下不詳 露名 ベンコフ

鄭 秉 旭 二十五六年位

鄭 慶 昌 二十六年位

平安道以下不詳 露名 シイトロビ

金 鴻 世 三十年位

京畿道江華郡以下不詳

曹 龍 岩 二十六年

其後大正十四年十二月入學セルモノ左ノ如シ

慶北安東以下不詳 露名 バトラク

安 相 勳 三十年位

咸北鎭城以下不詳 露名 ゼムルニヤ

金 允 實 二十七年位

慶南東萊以下不詳 露名 コルスキ

金 某 三十七年位

咸鏡道以下不詳 露名 トラツドロフ

張 赤 化 二十五年位

本籍不詳 露名 ニコライ

趙 トラツド 三十年位

本籍不詳 露名 シイトロフ

金 衡 二 寬 二十七年位

其後大正十五年秋更ニ左記ノ者入學セリ

江原道以下不詳 露名 ミノノツラ

金 大 鳳 三十年位

咸鏡道以下不詳 露名 クラナトフ

三十七年位

羅基コト 鄭達鉉 二十七年位

江原道襄陽以下不詳 露名 イースタリー

羅亭コト 趙斗元 二十七年位

其後更ニ昭和二年？三年末金祚伊ナル者派遣サル朝鮮ヨリ派遣
サレタルハ何レモ朝鮮共產黨ヨリ推薦サレタルモノニシテ先ツ
露語ヲ習得スル迄ハ全部同一級ニ於テ専ラ露語ノ教習ヲ受ケ然
ル後正規ノ學科ヲ習得スルコトナリ居レリ而シテ大正十五年
二月吳カイ、スーラ、金秉律、安義士、ソーニヤ等ハ夫々卒業
シ露領沿海州地方へ共產運動ノ爲メ配置サレ出發セリ

其後昭和二年末？三年初メ安相勳、金輝然、鄭秉旭、鄭慶昌、
曹龍岩等ハ病氣ノ爲メ或ハ學業不成績ノ爲メ中途退學各地ニ四
散シ昭和三年四月金大鳳、金鴻世、張勳ハ卒業鮮内ニ於ケル共

産主義運動ノ使命ヲ受ケテ出發、朱青松ハ昭和三年初メ卒業シ
テ沿海州地方ニ暫ク滞在スルコトナリ昭和四年八月ニハ趙斗
元同九月ニハ權五稷兩名ハ卒業入鮮スヘク出發セリ

而シテ東方勢力者共產大學ハ主トシテソヴエイト聯邦國人多ク
特別科中露語ニ精通スルモノハ二年修業シ露語ニ通セサルモノ
ハ三年修業トナリ居リ特別科ハ外人ノミニテ各學科ヲ通シ概念
ノミヲ教授シ本科年限ハ四年修業トナリ居ルモ朝鮮ヨリ派遣セ
ラルル留學生ハ特別科ニ入學シ居レリ

ロ、朴長松

本名入學當時以前ヨリ入學シ居リテ既ニ卒業班トナリ居リタル
モノ左記ノ通り大正十五年春卒業セルモ行先判明セス

露名 アニシヤ(女) 三十年位

露名 ソーニヤ(女) 三十年位
 同 スーラ(同) 二十五年位
 同 吳カイ 三十年位
 同 朱青松 二十八年位
 同 金震 三十年位

以上ハ全部旅順沿海州ヨリ派遣セラレタルモノ

吳鐵柱 二十餘年

台録コト李台永 二十餘年

女七種 三十餘年(京城出身)

以上朝鮮内ヨリ派遣セラレタルモノ

吳成緒 二十餘年

右ハ上海ヨリ派遣セラレタルモノ卒業班

而シテ本名等入學者一行中鄭秉旭ハ昭和二年一應上海ニ歸リ其
後更ニ入籍入學シタルモ後病死セリ

大正十四年十一月留學セシモノノ氏名左ノ如シ

露名	鮮名	年齢	出身地
ゼムリ	朴長松	二十八年位	(本名)
ベンコフ	鄭慶昌	二十六年位	江華
コルスキー	朴容善		東萊
シベチローバ(女)	金明時	二十年位	馬山
ズナメンキ	金應基	二十八年位	醴泉
バトロコフ	安相勳	三十年位	安東
ペトロフ	李永祚		慶尙道

ボストコープ	權五稷	二十五年位	忠清道
シベリスカヤ(女)	高明子	二十年位	安東縣
スレサロープ	姜 翰	二十年位	襄陽
クロモブ	李健鎬	二十八年位	

大正十四年末派遣セラレシ留學生左ノ如シ

籍名	氏名	年 齡	出身地
ニコライ	趙 勳	三十年位	利 原
トラツトロボ	張赤化	二十年位	咸 北
ストルロープ	鄭 碩 行	二十七年位	平 北
ラストツキン	金一星	三十餘年	慶 北
メシコープ	曹龍岩	二十六年	江 華
アバンカルトブ	金石然	二十八年	東 萊

アメールシン	徐順民	三十年位	大 邱
--------	-----	------	-----

大正十五年派遣留學生

籍名	鮮名	年 齡	出身地
イスクリン	趙斗元	二十六位	襄 陽
イシトロブ	金衡寬	廿七、八年位	咸 北
クラナトブ	鄭達鉉	三十年位	洪 原
ミノソウブ	金大鳳	三十年位	襄 陽
チナメトブ	尹基鉉	三十年位	會 亭

昭和二年

ミナヘバ(女)	朱 岳	平安道
---------	-----	-----

其他大正十五年頃金秉律(三六年位)ナルモノ沿海州ヨリ來リ
寄宿舍内ニ約壹ヶ月間滞在シ居リタルコトアリ

而シテ大正十五年夏迄ノ間ニ於テアニシヤ(女)ソーニヤ(女) スーラ(女)吳カイ、金震(以上沿海州ヨリ派遣)吳鐵柱、李台永(台鉉)玄七鍾(以上鮮内ヨリ派遣)吳成崙(上海ヨリ派遣)ハ何レモ卒業シテ順次出發シタルモノノ如キモ絕對秘密ニシテ發表セサルヲ以テ判明セサルモ大略自己ノ出身地又ハ希望地ニ革命運動ノ使命ヲ與ヘ派遣スル慣例トナリ居レリ沿海州方面ノ者ハ沿海州又ハ北滿地方ニ鮮内ノモノハ鮮内ニ上海ノモノハ上海ニ派遣セラレタルモノノ如シ

以上ノ者ノ内吳鉉柱ハ鮮内ニテ玄七鍾ハ間島ニテ何レモ共產黨事件ニテ逮捕セラレタリ

朱青松ハ當時同シク卒業シタルモ同地ニ留リ教授通譯ヲ爲シ居タリシカ昭和三年何レヘカ派遣サレ鄭慶旭ハ病死シ金明時、曹

龍岩、安相勳ハ昭和二年夏學課不成績ナリシ爲メ退學セシメラレテ夫々各自ノ希望地ニ赴キ鄭慶昌ハ大正十五年六月スーラト結婚後病氣トナリ一時沿海州ニ歸郷後更ニモスコーニ來リ同地工場ニテ從業シ居レルニ邂逅セリ

姜翰(スレサーロブ)(平北人)ハ昭和二年罹病シタルモ其後判明セス

鄭碩行、金一星、金石然、趙勳、金大鳳ハ昭和三年夏卒業滿州及鮮内ニ派遣セラレ趙斗元、鄭達鉉、權五稷、李永祚、金應基朴長松(本名)ハ昭和四年五月卒業入鮮趙斗元ハ逮捕セラレタリ

崔春澤ハ入學後間モ無ク大正十五年夏行先不明トナリ高明子ハ昭和四年秋卒業歸鮮シ張道明、金衡寬、李健鎬ハ莫斯科ニ於テ

勉強モ爲サス徒食シ居レリ朱岳（女）及徐純民ハ目下留學中尹
基鉉ハ盲腸炎ニテ手術入院シ居レリ而シテ同校ニ於テハ男女ノ
區別ナク男女共學ナリ

ハ、高 四 察

大体朴長松ノ供述ニ同シ

ニ、李 永 祚

朴長松ノ供述ニ同シ

ホ、金 應 基

大正十五年一月入學シ昭和二年八月當時縣内ニ於ケル派閥闘争
ノ延長ニテ派争ノ結果ト成績不良ノ關係モアリ退學處分ニ附セ
ラレタルカ本名ト共ニ金輝星、崔春澤、鄭奎旭、安相勳、曹龍
岩等モ亦退學セシメラレタリ而シテ退學セシメラレタル者ハ其

40

後歸鮮シ何レモ逮捕セラレタリ

其他ニ關シテハ朴長松ノ供述ト略々同一ナリ

ヘ、朱 青 松

大正十四年派遣留學生鄭奎旭一行ノ入學セシ當時既ニ卒業班ト
爲リ居リタルモノニシテ本名等一行十三名ハ露領沿海州ヨリ派
遣セラレタルモ當時既ニ入學シ居リタルモノ四五名アリ其ノ氏
名等記憶セス其ノ他權五稷、朴長松等ノ供述ト同ジ

ト、安 秉 珍

高成昌、金濟惠（趙勳ノ妻）等ト共ニ入學シタルガ既ニ在校中
ノ者ハ吳カイ、朴ベイジヤ、劉シユーラ（女）韓シシヤ金某（
女）金聖澤ノ六名ニシテ大正十三年秋更ニ盧尙烈、李志澤、朱
青松、玄七鍾、金虎、金奎烈、李德善（女）等入學シ大正十四

年中ニハ朝鮮共產黨ヨリノ留學生トシテ權五稷外十七名入學セ
リ其他學校内ニ於ケル鮮人學生ノ生活狀態等朴長松ノ供述ト同
シ

チ、趙 秉 昌

朝鮮人學生ハ他國人ト何等差別ナク各國人ヲ混合シテ各寄宿舍
ニ配屬セシメ露語研究ノ促進竝ニ親睦ヲ圖ラシメ居レルカ別ニ
朝鮮人ハ毎月二回位朝鮮學生討論會ヲ開催シタル場合ニ一堂ニ
會シ朝鮮革命ノ進路又ハ共產主義宣傳ノ批判ヲ爲シ研究ヲ重ネ
タリ

學科及授業ノ狀況

イ、權 五 稷

學科ハ世界歴史、露西亞革命運動史附レーニン主義、經濟學、

自然科學、唯物哲學、數學、社會進化史等ニシテ入學頭初露語
ニ通セサル間ハ通譯付ニテ教授ヲ爲シ語學ハ更ニ刑個ニ教授ス
而シテ毎日午前九時ヨリ授業ヲ始メ六時間宛授業ヲ爲シ始メ吳
カイ、朱青松等ニ於テ通譯ヲ爲シ居タルカ約一年後ニ至リテハ
各自相當露語ニ通スル様ニナリタルヲ以テ直接露人教師ヨリ教
授セラルルニ至レリ教師ノ教授方法其他ニ關シ不滿アル際ハ學
生會ノ決議ヲ經テ希望ヲ述フル事トナリ居レリ更ニ授業ノ餘暇
等ヲ利用シ時事問題ヲ提出シテ之カ討論ヲ爲サシメ理論ト實際
ノ研究ヲ爲サシムル事等アリ又教授時間中學生ヨリ質問等アル
場合ハ本回答ニ加ヘテ軍事ノ戰略戰術等ヲモ教ユル事アリ

ロ、朴 長 松

本校學年別ハ別科（三年制）本科（四年制）ニテ露人ハ全部本

科ニ入學シ其他ノ國民ハ別科ニ入學スルヲ常トス而シテ別科生ハ先ツ語學（露語）ヲ約一ケ年間習得セシム語學ニ通スル迄ハ通譯附ニテ教授スルモ其後ハ露人直接教授ヲ爲ス而シテ入學一ケ年間吳カイ及朱青松、崔成岸ノ三名ニテ通譯シ教授ヲ筆記セシメ後之ヲ基礎トシテ討議セシメ然ル後教師ニ於テ批判結論スルカ例トス漸ク露語ヲ解スルニ至ラハ或ル書籍ヲ指定シテ各人ヲシテ自由ニ研究セシメ（出席不出席ハ自由ナリ）多クハ學校ニ出席セスシテ舞臺或ハ野外等勝手ノ場所ニ於テ研究シタル後各人講堂ニ會シテ意見ヲ發表理論ノ討論ヲ爲サシメ然ル後教授ヨリ批判ヲ爲ス而シテ何等一定セシ科目モ無ク進級卒業ノ試験モ無ク平素ノ成績ニヨリ教授會ニ於テ決定ス

科目ハ

45

別科一年 露語、算術、自然科學

別科二年 經濟學並ニ露語世界革命史、露西亞共產黨史、軍事

教育

別科三年 唯物哲學、レーニン主義

等ニシテ世界情勢問題ハ教科書其ノ他ニヨリ教授セサルモ時々開催サル討論會ノ際其ノ内容トシテ研究セシメツツアリ本科ニ於ケル科目ハ別科ト大差無ク只多少廣汎ニ亘リ研寄スルモノノ如キモ確實ニ判明セス

同校ニ於テハ試験制ナク且ツ卒業期等ヲ一定シ居ラス學校ニ於テ日常ノ成績不良ナルモノハ落第或ハ中途退學ヲ命シ成績良好ニシテ充分ナル運動ヲ爲シ得ト認ムル者ニ對シテハ時期ノ如何ニ拘ラス卒業セシメ使命ヲ與フルコトトナリ居レリ

ハ、高 四 寮

新學期入學ハ毎年九月中旬ヲ常例（本名等ハ例外トシテ十二月入學セリ）トシ十二月末迄ヲ以テ第一學期ヲ終了更ニ三月末第二學期ヲ四月ヨリ翌五月中旬ヲ以テ第三學期トシ其後新學期開始迄ヲ夏季休暇トシテ休養ヲ與フ授業ハ午前九時十分頃開始午後一時ニ午前中ニ於ケル學課ヲ了ヘ午后三時三十分ヨリ更ニ授業開始午後五時四十分終了スルモ其ノ間各自ノ研究スル科目ハ自由ニシテ講堂ニ於テ研究スル者アリ或ハ圖書館ニ於テ研究スルモノアリ而シテ若シ疑問ヲ生スル等ノ事アラハ一週一回定メラレタル時間ニ於テ各擔當教授ノ下ニ到リ質問ヲ爲シ一ヶ月或ハ一ヶ月半毎ニ全級生ヲ講堂ニ會シ豫テ研究セシ學科ニ就テノ報告討論ヲ爲サシメタル後教授ニ於テ批判結論ヲ與フコトトナ

リ居レリ而シテ教授ハ此ノ間ニ於テ各人ノ成績ヲ徴シ學年末ニ於テ成績不良ナルモノハ落第ヲ命シ更ニ同一科目ニ就キ研究セシム

以上ノ外、人ニヨリ入學後一ケ年間ハ豫備科ニ入學セシメテ語學常識等ノ豫備知識ヲ授ケタル後一年生トシテ進級セシムルコトアリ各年ノ課目左ノ如シ

一年 經濟政治初步、ヨーロッパ及東洋革命史、ロシヤ共產歴

史、社會進化論、世界職業運動史、露語

第二學年

レーニン主義、唯物史觀、經濟學、ソヴエイト組織體

第三學年

自然科學、レーニン主義、唯物論、唯心論、辯證法

等ニシテ實際運動トシテ特ニ教授ヲ受クルコト無キモ科目中共
産黨史、職業運動史、社會進化論等ハ過去ニ於ケル運動ノ成否
ヲ物語ルモノナルヲ以テ之ヲ參考トシ將來ニ於ケル實際運動ノ
參考タラシムルモノノ如シ

二、李 永 祚

朴長松ノ供述ニ同シ

ホ、金 應 基

入學後一年間ハ主トシテ露語ノ研究ニ主力ヲ注キ政治初步、經
濟地理、數學等ヲ教授シ二學年ニハ經濟學、ロシヤ歴史、政治
西洋勞働運動史等ニシテ一學年ハ鮮人講師ノ通譯ニテ講義ヲ爲
シ鮮語ヲ以テノートニ筆記スルモ二學年以後ハ圖書館ヨリ書籍
ヲ借用シ一週一回位教授ヨリ講義ヲ受クルコトアルモ主ニ各自

ニテ研究シ不可解ノ點ノミヲ教授ニ質問ス尙三週一回一ヶ月一
回全員講堂ニ會シ豫テ研究シタル部分ヲ教授ト共ニ討論シ教授
ハ之ニ批判結論ヲ與ヘ知識ノ向上鍊磨ヲ圖ル、各學年級共十五
名内外ニシテ一級ニ級長一名アリ教授トノ連絡文房具ノ配給等
ヲ爲ス

授業ハ毎日午前十一時始業午後一時ニ午前ヲ了ヘ午后三時ヨリ
同六時迄更ニ午後ノ授業時間トス

ヘ、朱 青 松

昭和二年ヨリ豫備科ナルモノヲ設ケ入學當初ハ露語其他ノ豫備
知識ヲ教授スルコトトナリタルモ本名入學當時大正十三年頃ハ
政治學初歩社會進化史世界地理露語ヲ二年ハ露西亞共產黨史、政治經
濟學、社會進化史、露語ノ外經濟地理、唯物史觀、世界革命史

ヲ第三年ハ露語、唯物史觀、國際共產黨政策、レーニン主義、
黨組織論、自國事情研究、世界革命史^等ノ教授ヲ爲ス又本科ト外
國班トノ別アリ本科ハ露國ニ歸化シタル東洋民族ヲ收容シ外國
班ハ近東及遠東民族ニシテ露國ニ歸化セサルモノヲ收容教授ス
而シテ外國班ハ更ニ之ヲ各民族毎ニ班ヲ組織シ日本班、朝鮮班
中國班、蒙古班、安南班、印度班、波斯班、土耳其班、アラビ
ヤ班、ニクル班ニ分別シ各本國語ヲ以テ教授ス而シテ各學年各
民族班ヨリ露語ニ熟達セルモノヲ選拔シテ特別班ヲ組織シ通譯
無シニ教授ス第二學年迄ハ講義制ナルモ三學年ハ質問制ナリ
而シテ本名ハ大正十五年五月一度同大學ヲ卒業シタルカ露語ノ
成績優秀ナリシ爲メ引續キ講師班ト稱スル特別科ニ入學ヲ推薦
サレ昭和三年迄二ヶ年間修業シタルモ修業後講師トナルヲ欲セ

ス歸國ヲ決意シテ願出許可セラレタリ

ト、安 秉 珍

朱青松ノ供述ト略同ジ（講師班入學ヲ除ク）

チ、趙 秉 昌

安秉珍ノ供述ト略同ジ

四、卒業後ノ動靜

一、卒業後ノ課業

イ、權五、夜

學校卒業後ハ黨ノ方針ニ基キ一面生活ノ資ニ他面警察ノ注視ヲ免ルル手廻トシテ其ノ技術ヲ修得セシムヘク一時工場ニ働カスルヲ常トス卒業トナルモノト雖モ實際運動ヲ希望スルモノハ必ス一度其經驗ヲ修練セシムルコトトナリ居ルモ本名ハ卒業後直チニ歸郷セリ

ロ、朴長松

卒業後學校ニ於テハ各個人ノ體質ノ強弱技能等ヲ審査シ體質ノ弱キ者ニ對シテハ一定ノ使命ヲ與フル迄靜養セシメ又勞働者ノ群ニ投シ實際運動ノ術ニ當ラシムル者ハ工場其他ニ於テ實際勞

働ニ從事セシメ其ノ經驗ヲ與ヘ又ハ學校ニ留リ研究シテ論文提出等ヲ希望スル者ニハ一定ノ使命ヲ與フル迄一定ノ課業ヲ命ゼス研究セシムルコトトナリ居リ前記ノ他若シ中途退學者或ハ運動能力不充分ナル者ニ對シテハ工場其他ニ於テ實際労働ニ從事セシメテ其ノ實情ヲ修練セシム

而シテ本名ハ昭和四年五月卒業後學校ノ命ニヨリ或ル鐵工場ニ於テ實際労働ノ經驗ヲ爲シタリト

ハ、高四、察

學校所定ノ課業卒業後ハ各人ノ特別ナル希望或ハ成績優秀ナル者ニ對シテハ同校内ニアル講師班ニ進マシメ二ケ年間特種科目ヲ專攻セシメタル後共產大學ノ通譯又ハ講師タラシムルコトアルモ大學三年卒業後ハ大部分各種工場其他ニ於テ職工トシテ働

キ實際運動ヲ研究セシム

又學校卒業當時身體虛弱ナル者ハ轉地療養ヲ爲サシムルコトアリ本名ハ卒業後醫師ノ診斷ヲ受ケ身體衰弱シ居リタルヲ以テ昭和四年五月中旬ヨリ約三ヶ月間コーカサス地方ニ轉地療養ヲ爲シタルカ高加索ニ於テハ學校ノ證明書ニヨリ無料ニテ治療シタリ

ニ李永祚

學校卒業後ハ嘗テ勞働ノ經驗アルモノハ學校ヨリ命セラレテ何分ノ指令アル迄工場其他ニ於テ勞働ニ從事シ其ノ經驗ナキ者ハ學校ノ紹介ニテ四ヶ月乃至六ヶ月間勞働講習所ニ於テ實地勞働ヲ經驗スルコトトナリ居レリ然共本名ハ卒業當時病氣ナリシ爲メ學校ヨリ南方ググム半島（クリミヤ半島）ニ約一ヶ月間靜養

シ

ノ爲メ派遣セラレ後莫斯科ニ歸リ學校ヨリノ命ニヨリテ勞働講習所ニ入所木槻ヲ約二ヶ月間習得後歸郷ノ使命ヲ受ク

ホ金應基

昭和四年八月大學ヲ退學シ教員イワノフノ紹介ニテ莫斯科ヨリ約五十里ヲ距テタルエゴレフスキ市ボルスビウキ紡績會社ニ雇傭セラルル事トナリ日給一留ヲ支給セラレ約半年ノ後一留半宛支給ヲ受ケツツアリタルモ同工場ニ於テ其後新式機械ヲ購入シテ非熟練職工ヲ整理スルコトトナリ本名モ亦整理セラレタルヲ以テ一度莫斯科ニ歸レリ

ヘ朱青松

最近卒業セシモノヨリ仄聞スルニ學校卒業後ハ勞働講習所ニ於テ勞働ヲ實習セシムルトナリ居レル由ナルモ自分ノ卒業當時ハ

何等ノ課業ナカリキ

講師班卒業後學校ヨリ旅費八十圓及無賃乗車券ノ交附ヲ受ケコ

ーカサス國立休養所ニ於テ約一ヶ月半休養セリ

ト安業珍

何等ノ課業ナシ

子超榮昌

卒業後ノ課業ナク直チニ入籍セリ

2、歸鮮ノ使命

イ權五役

卒業ニ際シ學校ヨリ國際共產黨及國際共產青年會宛卒業證書ノ身
元及其ノ特徴等ヲ報告スルコトトナリ居リ黨機關ニ於テハ該報
告ヲ基調トシテ使命ヲ與フルモノナルモ本名ハ學校卒業後工場

31

労働ニ從事中同工場ニ於ケル職業會ナル機關ヲ通シ歸鮮方黨機

關ニ對シ出願シタル處昭和四年八月頃學校事務員ユルキンヨリ

呼出ヲ受ケ李永祥、金應基ノ兩名ト共ニ歸鮮ノ上労働青年ヲ基

礎トシテ共產革命運動ニ從事スヘキ使命ノ傳達ヲ受ケ間モ無ク

出發セリ

口朴・長松

學校卒業後課業ニ從事中昭和四年十月末大學ニ出頭歸鮮ヲ願出

タル處校長ヨリ歸鮮後ノ運動方針トシテ工場労働農民階級ノ何

レヲ中心トスルカノ質問ヲ受ケタルカ約一週間後再ヒ學校ニ呼

出サレ學部長ボクロボスキヨリ歸鮮後工場労働ヲ中心トシテ

革命運動ニ從事スル様口頭ニテ使命ノ傳達ヲ受ケタリ

ハ高四察

昭和四年八月中旬頃コーカサスヨリ歸校シタルカ病氣回復後引續キ莫斯科ニ滞在スルハ再ヒ健康ヲ害スルノ虞アリ且ツ本名ノ内縁ノ夫金丹治ハ本名ノ療養不在中歸鮮シタルヲ以テ歸鮮方學校ニ願出タル應約一週間ノ後歸鮮命令ヲ受ケ國際共產黨ヲ訪問シタルニ國黨ノ朝鮮ニ對スル赤化方針トシテ從來ノ因襲タル知識階級運動ヲ一掃シ勞働階級ヲ訓練シテ根本ヨリ運動ノ建直ヲ策スル方針ナルノ旨ヲ受ケ出發セリ

ニ李永祚

昭和四年九月末國際共產青年會ニ呼出サレ歸鮮命令ヲ受ケタル後朝鮮ニハ從來朝鮮共產黨アリシモ派争ノ爲メ屢々發覺檢舉セラレ目下解散狀態ニアリ之即チ黨派アル禍ニシテ汝等歸鮮後ハ從來ノ黨及青年會ヲ全部否認シ且ツ其背後ニアル表現團體等ト

62

モ連絡ヲ執ルコト無ク自ラ勞働者中ニ身ヲ投シ精銳分子ヲ訓練糾合シテヤチエーカヲ組織シ置キ將來黨組織時ニ於ケル會員黨ハ黨員タラシムヘク努力セサルヘカラスト從來朝鮮ニ於ケル赤化運動ノ失敗及今後ノ方針ニ付懇々指示ヲ受ケ歸鮮ノ途ニ就ケ

ホ金應基

エゴレスギ市ボルスビウキ紡績會社ニ於テ勤務中新機械購入ニ伴ヒ非熟練職工ノ整理ヲ爲シタル爲メ本名モ亦失職スルノ止ムナキニ至リ昭和四年八月末モスコニ至リ元工場勤務中知合ヒトナリシシルゲイ、シルゲウキツチ宅ニ滞在シ居タルモ歸鮮ノ念禁シ難キモノアリシヲ以テ其ノ準備ヲ爲シ一方共產大學ヲ訪問シ歸鮮ノ挨拶ヲ爲シタル處校長グイデルヨリ他ニモ近々歸鮮

スルモノアルヲ以テ同道歸鮮スヘク且ツ從來朝鮮ニ於ケル共產運動ハ何レモ失敗ニ終リ目下見ルヘキモノ無キヲ以テ歸鮮後ハ鮮國ニ於ケル労働者全盛ノ現状ヲ紹介シテ從來ノインテリゲンチヤの共產黨或ハ青年會ノ弊風ヲ打破シテ工場労働者又ハ農村青年ヲ訓練シ共產青年會労働組合ヲ組織シテ主義宣傳ニ努メ眞ノ朝鮮共產黨ヲ組織セサルヘカラスト激勵的挨拶ヲ受ケ二三日後李永祚ト共ニ出發セリ

ヘ朱 青 松

歸鮮後ノ使命トシテハ國際共產黨ヨリ本名ニ對シ朝鮮共產黨中央執行委員會所屬トシテ黨ノ爲メ活動セヨトノ命アリタル外具體的使命無シ

ト安 秉 珍

53

卒業當時朝鮮ニハ高麗共產青年會アリシヲ以テ其ノ所屬員トシテ學校ニ於テ修得セシコトヲ基調トシテ主義ノ宣傳ヲ爲スヘク國際共產青年會ヨリ命セラレタル外特記スヘキ使命ナシ

チ趙 秉 昌

大正十四年十月學校卒業後翌十五年六月迄何等爲スコト無ク徒食シ居リ歸鮮シ度キ意志アリタルモ旅費無ク腐心シ居ル中突然歸鮮ノ命ヲ受ケタルカ出發ノ際校長ヨリ學校ニ於テ習得シタル共產主義ノ宣傳ヲ爲スヘク指示ヲ受テ單獨ニテ旅費ヲ受ケ歸鮮シタリ

3、歸鮮ノ経路及旅費ノ出所

イ權 五 稷

學校ヨリ歸鮮ノ命ヲ受クルニ際シ浦鹽迄ノ無料乗車券及旅費ト

シテ金七十圓ノ支給ヲ受ケタルカ別ニ豫テ貯蓄シアリタル金員
及書籍ヲ賣却セシ代金等四十圓位ヲ都合シ合計百十五圓位ヲ所
持昭和四年九月初旬午後十時發列車ニテ浦鹽ニ向ケ出發九月十
日頃午前十一時同地ニ到着國際共產黨浦鹽連絡部員イワノブノ
出迎ヲ受ケ海岸通り某露人旅館ニ約三日間滞在セリ其間路上ニ
於テ偶然韓斌ニ出會シ入鮮ノ使命ヲ告ケタル處韓斌モ亦同志李
鍾烈ト共ニ入鮮計劃中ナルヲ語リ立別レタリ浦鹽到着後三日目
ニ連絡員イワノブヨリ更ニ旅費トシテ金五十圓ノ支給ヲ受ケ九
月中旬頃浦鹽ヲ出發徒歩ニテ約十二里ヲ行キ或ル部落ニ於テ一
泊翌日徒歩ニテ國境嶺秋地方ヲ通過支那領初門亭子ニ至リ同地
居住鮮人朴一龍(初對面者ナリト云フ)方ニ一泊更ニ板子溝ニ
至リ鮮人某旅館ニ二泊ノ後出發其後五ヶ所ニ於テ各一泊ヲ爲シ

タル後豆滿江岸ニ達シ豆滿江ヲ渡船ニテ越ヘ慶源經由鍾城ニ至
リ旅館ニ一泊朝發列車ニテ城津ニ至ル豫定ナリシモ途中警戒嚴
重ナリシ爲メ城津手前ノ驛ニ於テ下車徒歩ニテ城津ヲ經由城津
ノ次ノ驛ニ於テ元山行乗車券ヲ買求メ夜行ニテ出發シタルモ警
戒嚴重ナリシ爲メ元山手前ノ驛ニ下車徒歩ニテ元山經由元山大
ノ驛迄ノ切符ヲ買ヒ夜行ニテ出發九月末日一路龍山驛ニ到着徒
歩ニテ南大門通り鐘路通りヲ經テ東大門外洞名不詳旅館朴某方
ニ於テ博覽會見物ノ爲メ出京セリト詳リ宿泊セリ

口朴長松

歸鮮ノ命ヲ受ケン際浦鹽行無料乗車券及旅費トシテ露貨三十九
留及變裝用書籍代等トシテ露貨四十五留ノ支給ヲ受ケ露國通常
服ニ着換昭和四年十月末夜行ニテ莫斯科出發十一月十日頃浦鹽

ニ到着國際共產黨浦鹽連絡部員露人某ノ出迎ヲ受ケ（莫斯科ヨリ留學生ヲ潛入セシムル時ハ豫メ黨ヨリ浦鹽連絡部員ニ通知ヲ爲シ又列車中ニ於テモ車掌ニ通知シアリテ種々便宜ヲ與フコトトナリ居レリ）連絡部員ヨリ出發ノ命アル迄滞在スヘシトノ事ニテ約十日間市外ニ滞在十一月末頃連絡部員ヨリ旅費トシテ更ニ六十圓及露支國境通過ノ方法旅程等ヲ詳記セル一寸四方位ノ紙片一枚トヲ貰受ケ道案内者トシテ連絡部員ノ露人一名ノ附添ヲ受ケ徒歩ニテ浦鹽出發三日ノ後露支國境ニ到着一泊ノ後露人ヨリ越境方法ノ指示ヲ受ケ曉方支那官憲ノ目ヲ逃レテ密カニ越境シ其處ヨリ露人ハ引返シ單獨徒歩ニテ二日間目ニ揮春東門外一哩半某農家ニ一泊後徒歩ニテ二日ノ後後漢關嶺對岸ノ支那領露人村ニ一泊翌朝水上ヲ渡リ後漢關嶺ニ到着清津迄ノ切符ヲ買ヒ

朝發列車ニテ出發午後六時頃清津着驛前露人某旅館ニ投宿十二月六日頃朝發列車ニテ京城ニ向ケ直行十二月七日午前七時清津里驛下車シ電車ニテ東大門内ニ到リ附近飲食店ニ於テ朝食ヲ喫シ光化門通り金剛旅館ニ滞留セリ而シテ浦鹽ニ於テ連絡部員ノ指示ニヨリ莫斯科出發以來ノ洋服ヲ脱棄テ連絡部員ヨリ與ヘラルタル灰色周衣及黑色袴ニ着換ヲ爲シ帽子ハ其儘防寒帽ヲ冠リ履物ハ揮春ニ於テ金銀圓ヲ投シ支那靴ヲ買求メテ履換ヘタリ

ハ高 四 察

歸鮮スルニ當リ學校ヨリ浦鹽迄ノ無賃乘車券及旅費トシテ五十圓書籍代トシテ九十圓及莫斯科ヨリ浦鹽間ノ食費三十三圓ノ支給ヲ受ケ自分ノ小使殘額二十圓ヲ合シ共產大學財政部ヨリ浦鹽ノ某ロシヤ人宛ノ添書ヲ貰ヒ昭和四年八月二十二日頃午後十時

發列車ニテ單獨浦鹽ニ向ケ出發九月二日午前十時頃浦鹽ニ到着
極東連絡部員露人某ノ出迎ヲ受ケ其ノ添書ヲ手交シ約五日間滯
在中前記露人ハ二日目ニ金應基三日目ニ李永祚ヲ連行シ來リタ
ルカ生活ノ都合三名共効外ニ轉居シ約二週間ノ後九月二十五日
頃前記露人ノ連行セシ鮮人男(二十五年位)ヲ道案内者トシテ
三名相携ヘ浦鹽港ヨリ木船ニ乗シテ出發某地點ニ上陸暫ク歩行
シテ薄暮某露人方ニ一泊翌朝車ニテ出發某露人方ニ於テ餐食ヲ
爲シ夕刻バラハシニ到着デヘウニ一泊何等ノ手續ヲ爲スコト無
ク翌朝先ツ李永祚ノミ出發シ道案内ガ中途ヨリ引返スヲ待チテ
三四日後出發シ山ヲ超ヘテ某露人宅ニ一泊此處ニテ晝ノ道案内
ヲ歸シ更ニ翌朝夫婦連レノ道案内ヲ履ヒ洋服ヲ鮮服ニ着換ヘ出
發シタルカ三日目ニ前記夫婦連レノ道案内ヲ歸シ約一週間歩行

シタル後午前十一時頃豆滿江ヲ木舟ニテ渡リ鮮内ニ第一歩ヲ印
シ警察官ノ取調ヲ受ケタルモ其ノ際同行者余應基ハ支那地ニ居
住シ居ル者ナルカ今因妻ヲ連行鐵城ノ病院ニ行ク者ナリト斷キ
容易ニ鮮内ニ侵入スルコトヲ得タリ

ニ李永祚

昭和四年九月下旬金應基ト共ニ莫斯科ヲ出發約二週間ノ後浦鹽
ニ到着沿海州連絡員ノ案内ニテ旅館ニ投宿シ高明子(高四察)ト出
會同道歸辭スルコトナリ一週間滯在シ後連絡部ヨリ斡旋セシ
鮮人道案内者李基石ヲ同伴帆船ニテ露支國境附近ニ至リ下船上
陸後馬車ニテ露支國境ニ至リ國境連絡部ニ於テ身分證明書ヲ貰
ヒ受ケ越境ノ準備ヲ爲シタルモ三名同道スルハ危險ナルヲ以テ
本名ハ他ノ二名ニ先チ案内者李基石ヲ連行先發越境シタルカ國

境通過後案内者ト別ルルニ際シ同人ノ斡旋ニテ親戚ニ當ルト云
フ氏名不詳鮮人ノ案内者ヲ得吉林省延吉縣一松亭ニ到着シ更ニ
豫テ第一ノ案内者李基石ヨリ紹介セラレタル延吉縣清水洞學校
教員崔及金ノ兩名ヲ訪問シタル處崔ハ龍井村自宅ニ歸リ不在中
ナリシヲ以テ金ニ對シ情ヲ打明ケ歸鮮教導方ヲ依頼シタルカ金
ハ入鮮ノ經路不案内ナルヲ以テ龍井村迄案内スヘント一泊ノ後
金ヲ案内者トシテ間島龍井村ニ到着セリ然ルニ豫テ同地滞在ノ
筈ナリシ崔(學校教員)ハ龍井ニ滞在シ居テサリシ爲メ單獨入
鮮ヲ決意シ龍井村ニ於テ前記案内者余ト別レ同地ニ一泊翌日列
車ニテ龍井村ヲ出發シテ對岸上三峰ニ至リ下車シタルカ其處ニ
テ支那官憲ノ破問ヲ受ケタルモ無事通過徒歩ニテ橋ヲ渡リ入鮮
シ日本警察官ノ嚴重ナル收調ヲ受ケタルカ其ノ際本籍ヲ咸北鎮

鐵都ト稱シ咸北朱乙迄父ノ使ニテ行ク崔ハ峰ナリト偽リタル處
警察官ハ疑ヒタルモノノ如ク本名ヲ移動警察官ニ引續テ爲シタ
ルヲ以テ朱乙迄行クハ危險ト思ヒ列車乗込員ノ囑ヲ聽ヒ途中鐵
城驛ニ下車一泊ノ後翌日列車ニテ京城ニ直行十月中旬頃京城ニ
到着セリ

水金應基

歸鮮ノ旅費ハ平素工場ニ於テ貯金シ居タル百九十五留中百五十
留(本名ハ學校成績不良ニシテ中途退學セシメラルヲ以テ
黨ヨリ別ニ歸郷旅費ノ支給ナカリシモノナラム)ヲ出發前李永
祚ニ依頼シテ米貨ニ兩替シ李永祚及權五稷ノ歸鮮旅費ト合シテ
二百弗ヲ所持シ失業労働者タルノ故ヲ以テ無料乗車券ノ交付ヲ
受ケ八月下旬日不詳午后四時頃莫斯科發列車ニテ李永祚ト同道

浦田ニ向ヒタルカ途中ネルチンスクニ於テ病氣ノ爲メ李永祚ト
共ニ下車同地病院ニ到リ労働組合員タルノ證明書ヲ呈示シテ無
料診療ヲ受ケ二日間滞在シタルカモスコ―出發ノ際指定セラレ
タル列車ヲ逸シタル爲メ浦田ニ下車ノ際支障アルヲ豫期シ李永
祚ヨリ一日先發シテ浦田ニ向ヒ九月上旬午前十時頃同地ニ到着
下車スルト共ニゲベウニ到リ事情ヲ訴ヘタル處前日イワノフナ
ル者來訪セリトテ直チニイワノフヲ電話ニテ呼出シタルカイワ
ノフノ案内ニテ旅人旅館ベトロフ方ニ至リ高四寮ニ面會翌日李
永祚ノ到着ヲ俟テテ浦田郊外ニ三名共同ニテ居ヲ築ヘ暫ク入館
ノ機ヲ伺ヒツツアリタルカ約二週間ノ後愈々入館スルトトナ
リ鮮服ニ着換ヘイワノフノ斃ニ係ル三十五年位鮮人ヲ遺案内
トシテ木船ニテ浦田ヲ出發約三時間ニシテ某地點ニ上陸若干歩

58

行シタル後某露國人農家ニ一泊翌朝馬車ニテ出發夕刻ハラハシ
ニ到着ゲベウニ出頭シテ鮮人ノ旨ヲ申告承認ヲ得テ同地ニ一泊
シタルモ三名相携ヘテ入館スルノ危険ナルヲ慮レ翌日先ツ李永
祚ノミ先發セシメ本名ハ所持金中二百圓ヲ高四寮ニ所持セシメ
李ノ出發後二三日ニシテ高四寮ト同伴出發シ山ヲ越ヘ夕刻某露
人宅ニ一泊此處ヨリ案内者ヲ戻シ余及高ノ兩名トナリタルカ途
中食物ニ窮シ僅カニ粟及馬鈴薯ヲ食シテ困難ヲ續ケタル後一週
間餘ニシテ豆滿江岸ニ達シ入館警察官ノ檢問ニ對シテハ兩名ハ
夫婦ニシテ龍井ニ於テ學校ノ教員ヲ爲シ居ルモノナルカ妻ノ病
氣ノ爲メ龍井ニ於ケル病院ニ入院スルモノナリト詐リ侵入セリ

ヘ朱 青 松

歸鮮ニ際シ浦田迄ノ無賃乗車券及旅費トシテ金三十三圓ノ支給

ヲ受ケ浦鹽到着後國際共產黨沿海州執行委員會秘密部ニ立寄ル
ヘク命ヲ受ケ昭和三年八月下旬頃莫斯科出發約十一日間ノ後浦
鹽ニ到着直チニ沿海州々執行委員會秘密部ヲ訪問ゴオリント會
合歸鮮ニ付打合セテ爲シタルカ其際暫ク前住所タルニコリスク
ニ立寄り度キ希望ヲ述ヘ其許可ヲ得テ約十日間ニコリスクニ滞在
在中時恰モ間島共產黨檢舉當時ナリシヲ以テ各新聞紙ハ競フテ
之カ報導ヲ爲シタルヲ以テ本名ハ入鮮ニ對シ同地ヲ通過スルコ
トノ頗ル危險ナルヲ推ヒ浦鹽ニ引返シ同地委員會秘密部ニコオ
リンヲ訪問シ間島地方ニ於ケル當時ノ狀況ヲ具ニ申告入鮮方ニ
關シ打合セテ爲シタル處同人モ亦入鮮困難ナルノミナラス當時
入鮮ヲ決行スルノ不利ナルヲ察シ暫クニコリスクニ滞在スヘシ
トノ事ナリシヲ以テ再ヒニコリスクニ引返シ滞在シ居タルカ

浦鹽委員會ヨリハ何等ノ命無キヲ以テ昭和四年四月書面ニテコ
オリンニ對シ今後ノ行動ニ付照會シタル處五月頃浦鹽ニ來ルヘ
シトノ返信アリ直チニ浦鹽ニ至リコオリンニ面會シテ入鮮方ニ
關シ種々打合セテ爲シタル結果愈々入鮮スルコトナリ同人ヨ
リ旅費トシテ金貨五十圓及國境通過證ヲ貰ヒ且ツ入鮮後ノ連絡
場所トシテ元山中外印刷所宋仁哲及京城府安國洞十一番地普通
高生徒洪承祐ヲ指定一切ノ指示ヲ受ケ同年六月初旬露國汽船ニ
テ浦鹽出發ホセツト港ニ至リ上陸徒歩ニテ琿春間島龍井通過入
鮮セリ

ト安 秉 珍

大正十五年七月莫斯科ヲ出發スルニ際シ學校經濟部ヨリ旅費ト
シテ露貨百二十圓ノ交附ヲ受ケ汽車ニテ浦鹽ニ到着沿海州連絡
部ニ立寄り國境通過旅行券ノ交附ヲ氣ケ汽船ニテ浦鹽出發露領

煙秋ニ到着上陸徒歩ニテ國境ヲ越ヘ間島經由三峰ヨリ汽車ニテ
會亭元山經由京城ニ來レリ

而シテ入鮮當時ハ學役第二學期開始時期ナリシヲ以テ本名モ亦
間島ヨリ鮮内學校ニ戻ル風ヲ装ヒタルヲ以テ日本官憲ヨリ一應
ノ調査ハ受ケタルモ特別詳細ナル調査ハ受ケサリント云フ

子趙 業 昌

共產大學ニ於テハ卒業學生ヲ一齊ニ入鮮セシムルハ發覺ノ虞ア
ルヲ以テ各人毎ニ各別ニ卒業シタル形式ヲ取り順次入鮮セシム
ルモノナルカ本名ハ大正十五年十月在學當時歸鮮ノ命ヲ受ケ旅
費トシテ現金露貨五十圓(當時一圓ハ日貨九十錢位ナリト云フ)
及清鹽迄ノ無賃乗車券ヲ支給セラレ莫斯科出發鐵路浦鹽ニ至リ
タルモ病氣ノ爲メ露人旅館ニ三日間許リ休養シタル後汽車ニテ

浦鹽出發露領ホセツトニ上陸鮮人旅館ニ一泊翌日徒歩ニテ清開
ニ至リ清開驛ヨリ鐵路清津ニ至リ同地ヨリ汽船ニテ元山ニ上陸
元山ヨリ汽車ニテ一路京城ニ到着直チニ(十月末日)京城ヨリ
忠州行自働車ニテ一時歸郷セリ

4、歸鮮後ノ狀況

イ 權 五 稷

入城後博覽會見物ヲ裝ヒ東大門外朴某ナル旅館ニ投宿同志ノ探
索ニ努メタルガ同一旅館ニ永ク滞在スルハ警察ヨリ探知セラル
ル虞アリタルヲ以テ其後樂園洞香地不詳熙城旅館、觀水洞香地
不詳權花旅館、仁寺洞某旅館等ニ於テ朴一成、南秉哲、李丙甲
ト變名各二、三日宛宿泊所在ヲ轉々シ表面博覽會見物ヲ裝ヒ極
力同志ノ所在ヲ探索シタルモ邂逅スルヲ得サリシヲ以テ方針ヲ變

變更シテ十月十二日頃本名ノ元住所タリシ仁川府龍里所在仁川
労働聯盟事務所ニ至リ入露前共ニ表現運動ニ從事シツツアリシ
高逸、劉斗熙ヲ尋ネタル處兩名ハ何レモ昭和三年第四次朝鮮共
産黨事件ニテ檢舉セラレ目下入監中ナル趣ヲ聞知シタルヲ以テ
其他從來社會運動者等ニシテ出獄シ居ル者ヲ訪ネタル處當時李
承燁カ出獄シ居ルヲ聞知シタルヲ以テ其ノ住所地仁川府金谷里
ニ李承燁ヲ訪ネ情ヲ打明ケテ潜伏場所ノ斡旋ヲ依頼シタル處李
ハ權忠一（目下仁川社會運動者ノリーダー）ニ對シ紹介一泊シ
タルモ權忠一宅ニハ七十年餘ニナル老人アリ總テ事ヲ圖ルニ不
便ナリシヲ以テ更ニ李承燁ノ紹介ニテ同地金聖圭方ニ移轉十月
十三日ヨリ同月二十八日迄同地潜伏滞在シツツアリ其間李承燁
ヨリ朝鮮ニ於ケル運動戰線ノ狀況ヲ聴取シ又國際共產黨ノ運動

方針タル所謂都會ヨリ農村ヘインテリゲンチヤヨリ純プロレタ
リヤヘノ訓練ヲモツト一トシテ續々説明シテ李承燁ノ贊同ヲ得
種々協議シタル後京城ニ於ケル運動者ヲ問ヒタルニ益善洞洪眞
祐方ニ朴迅英ノ滞在シ居ルヲ聞知シタルヲ以テ何等具體的運動
ニ着手スルコトナク後日ヲ約シ一應十月二十八日午后一時頃京
城ニ引返シ益善洞ニ朴迅英ヲ訪問先ツ潜伏場所ノ周旋ヲ依頼シ
テ鐘路三丁目古物商金連培方ニ二日間滞在更ニ金連培ノ紹介ニ
テ金ノ裏ナル申某方ニ十一月二日迄二日間潜伏シタルカ先之金
連培方潜伏中朴迅英ノ紹介ニテ午後七時頃南大門附近ニ於テ金
丹冶ト邂逅シ兩名ハ徒歩ニテ漢江鐵橋附近迄途々運動組織ニ就
キ協議シ其後更ニ孔德里鐵道線路前ニ於テ再ヒ金丹冶ト會見着
々協議ヲ進メツツアリ其ノ間十一月三日ヨリ金丹冶ノ紹介ニヨ

リ麻浦洞番地不詳韓親秀方ニ移轉約一ヶ月間滞在更ニ十二月二日頃ヨリ金元植（京城出版労働執行委員長）ノ紹介ニテ館洞番地不詳吳某方ニ二三日間潜伏後又朴英ノ紹介ニテ樓上洞番地不詳柳年秀方ニ一月二十日頃迄滞在其間一月初旬頃午後十時發列車ニテ金啓鎬ト共ニ元山ニ至リ同地ト都台監名ニテ東海堂藥房ヲ訪問總辦趙斗元ト三名共ニ會同商會ニ至リ李某ト都合四名ニテ更ニ前記東海堂藥房ニ引返シ宿泊中趙斗元ト兩名ニテ運動組織ニ關シ具ニ協議ヲ重ネ翌日趙斗元ノ紹介ニテ元山新興洞番地不詳秋官承ノ妹宅ニ二泊ノ後單獨歸京一月二十日頃金啓鎬ノ紹介ニテ唐深洞番地不詳樓花女學校教師金貞和方ニ移轉シ一月末頃金丹治ノ紹介ニテ桃花洞七十五番地金應記方ニ移轉潜伏一月二十二日仁川ニ至リ再ヒ京城ニ引返シ金應記方

62

ニ滞在其間ニ於テ著々運動ヲ進展シ或ハ黨ノ組織ヲ完了シ三月一日ニ撤布スヘキ不穩文書ヲ爲シツツアリタルヲ逮捕サレタリ

口朴 長 松

京城到着後光化門通り金剛旅館ニ本籍清津新岩洞商人金仁秀ト僞名ニ泊ノ後豫テ本名ノ叔父朴一秉カ大學病院入院中ナルヲ新聞紙ニヨリ探知シタルヲ以テ之ヲ訪問シタル處一秉ハ頗ル驚愕シ居タル爲メ當日ハ何等運動等ニ關シテハ發言セス病院内ニ一泊シタル上翌日一秉ノ紹介ニヨリ清進洞漢陽旅館ニ金仁秀ト僞名月二十日ニテ下宿スルコトトシ爾來市中ヲ徘徊シテ極力同志ノ探索ニ努メタル結果十二月十五日東亞日報社前ニ於テ樞五稷ニ邂逅運動方針ニ付種々協議シタル後三日後ニ再會ヲ約シ本名ノ住所ヲ權ニ打明ケ別レタリ其後十二月二十日頃樞五稷ト再會

種々協議ノ結果京城ニ於ケル運動ハ一時見合ハセ先ツ仁川ニ於
テ運動ニ着手スヘク協議一決十二月二十五日同伴仁川ニ至リ貸
家ヲ搜索スヘク約シ立別レ其後同月二十五日約束ノ通り權五稷
ト同伴仁川ニ至リ李承燁ヲ訪ネタルモ不在ナリシ爲兩名ニテ府
内ヲ轉々住所地ノ選定ヲ爲シタル結果仁川府外里一七七番地ニ
於テ金慶二間ヲ月四箇ニテ借受ケ一泊翌日權五稷ノ紹介ニテ金
允實ト僞名李承燁ト會見シタルモ他ニ人アリタル爲メ雜談ヲ爲
シタルノミニテ立別レ權五稷ハ一日京城ニ立別レタリ先之叔父
朴一秉ノ繼弟モアリ十二月二十五日鄉里權城ヨリ妻崔翠姬ヲ呼
寄セ京城朴一秉方ニ滞在セシメアリタルヲ以テ十二月二十七日
之ヲ同伴歸仁世帶ヲ稱ヘ身ハ工場ニ於テ勞働ニ從事シ李承燁ト
共ニ旺ニ主義ノ宣傳ヲ爲シ其間一月二十九日頃權五稷來仁同人

ヨリ京城ニ於ケル同志（金連培？）ノ檢舉セラレシコト及釜山
鐘紡罷業ノ失敗ニ終リタルヲ聞知シタルカ當時罷業中ナリシ仁
川加藤精米所ノ同盟モ亦形勢不利ナルヲ以テ最後ノ運動方針ニ
就キ種々協議シ結局朝鮮ニ於ケル此種抗爭ノ失敗ハ勞働總同盟
以下勞働團體ノ沈滞ニ起因スルヲ以テ勞働、仁川勞働聯盟ノ復
活ヲ期スル爲メ積極的ニ支持スルコトニ協議一決權ハ二月一日
歸京セリ其後李承燁ト協議仁川勞働聯盟ノ支持復活ヲ策シツ
アリシカ二月十五日權五稷來仁三月一日ヲ期シ撤文撤布ヲ爲ス
コトトシ自分ハ其ノ原稿ヲ作成シテ之ヲ李承燁ニ手交シ其後二
月二十二日權五稷ハ又別ニ撤文ノ起案ヲ爲シテ李承燁ヲシテ贈
寫版、原紙鐵筆ヲ搬入セシメ權五稷自ラ之ヲ認メテ李承燁ニ手
交シタル後種々不穩文書撤布計劃ニ付協議シタルカ自分ハ權五

稷ヨリ稷不稷文書ヲ元山海岸通り金剛商會迄運搬方依頼サレ二月二十四日朝仁川出發目的ヲ達シテ二十五日午後一時半元山出發京城ニ歸リ豫テ約束ノ通り權五稷ト東大門附近ニ於テ會合セムトシタルモ目的ヲ達スル能ハス仁川ニ歸宅セリ

其後權五稷及元山李某ト南大門西側支那料理店ニ於テ會合元山迄運搬スヘキ檄文ニ付協議シタル結果本名ノ妻崔聖姬ヲシテ運搬セシムルコトトシ一切ノ手筈ヲ定メ立別レタルカ歸仁ノ後妻崔聖姬ニ對シ情ヲ明ケテ京城ニ赴カシメタルモ其ノ會合場所ト南大門ヲ南大門驛ト間違タル爲崔ハ其體仁川ニ引返シ其後權五稷トモ會合スル機會ナカリシ爲本計劃ノ進行ハ其體トナリ然レシツ三月五日松峴里五六番地ニ移轉セリ其後某夜李某承傳ガ訪レ檄文事件ニテ危險切迫セルヲ以テ逃走スヘシトテ其ノ旅費ノ

相談ヲ受ケ所持金十圓ヲ與ヘ逃走セシメタリ而シテ今後生活ノ安定ヲ計リ徐々ニ運動ヲ進展セシムヘク計劃シ百方就職方奔走シツツアリタルカ幾許モ無ク逮捕セラレタリ

ハ高 四 察

入鮮ト同時ニ在韓ヨリ輕便鐵道ニヨリ會率ニ至リテ下車會應基ハ同地ニ一泊セシモ本名ハ即日服裝ヲ變ヘ及結髮ヲ下ケ髮トシテ咸興ニ至リ咸興面上里一五六番地朱世竹ノ實家ヲ訪問シタル後更ニ京城迄ノ切符ヲ買ヒ十月十一日午前七時十五分京城驛着人力車ニテ豫テ莫斯科滞在の中知合ナル京城府南大門通り一丁目高敬相ノ紹介ニテ同人ノ家タル需昌洞一五〇番地崔相信方ヲ訪問韓惠淑ト僞名シ咸興ヨリ勉強ノ爲メ入京シタルモノナルカ目下宿所ハ高致相ニ於テ探索中ナリト稱シ暫ク滞在方ヲ依頼承諾

ヲ得テ滞在中同家主人ノ斡旋ニテ樓下洞一七七番地保育學校生
徒金武得方ニ移轉シタルカ翌十月十七日金應基ガ訪問シ來リ金
ノ案内ニテ府内桃花洞八十五番地金丹治ノ隱家タル金應基方ニ
赴ク途中新孔德里停留場附近ニ於テ金丹治ト會合シ金應基ト別
レ金丹治ト共ニ下宿ニ歸宅セリ
先之歸鮮ニ先チバラバシニ於テ自分ハ一行（李永祚、金應基）
二名ニ對シ入京後ノ連絡方法トシテ十月十四日午後七時頃府内
蕪井洞大廟附近ニテ金應基ト會スヘク若シ不可能ナル場合ハ更
ニ十月十九日午後七時頃水操橋ヨリ三角町ニ通スル川ノ附近ニ
於テ會合スヘク李永祚トハ十月二十日午後七時頃通信局前ニ於
テ逢フヘク約束シ置キタルカ第一回ノ十月十四日ハ日ヲ誤リ十
三日ニ行キタルヲ以テ會合スルヲ得ス十七日ハ金應基訪問シ來

リタルヲ以テ其後ノ會合期日タル十九日ニハ其必要認メザリシ
ヲ以テ其儘トナシ同二十日ノ李永祚トノ會見モ都合ニヨリ約束
履行スルヲ得サリシト云フ
金丹治ト同棲中屢々朴英ノ來訪ヲ受ケタルカ其ノ間ニ於テ朴
英ハ本名ニ對シ金丹治ハ朝鮮ニ永住シ得ヘキモノニ非ラサル
ヲ以テ共ニ退鮮スヘク應基シタルモ高四察ハ之ヲ退ケタリ其後
金丹治ハ金政夏ト共ニ退鮮ニ關スル協議ヲ爲シ若ク退鮮ノ準備
ヲ整ヘツツアリ金丹治ハ高四察ニ對シテモ同伴入露方ヲ應基シ
タルモ應セサリシヲ以テ朴英ト共ニ朝鮮ト浦羅トノ連絡ニ從
事スヘク其ノ暗號連絡等ニ關シ指示ヲ受ケタリ
以上ノ如ク本名ハ今回ノ火曜派朝鮮共產黨再組織ニ就テノ巨頭
タル金丹治ノ妻トシテ専ラ本名宅ニ出入スル黨員間ノ連絡ノ任

ニ當リツツアリシカ故々金丹治ノ入歸スルニ及ヒ金丹治ト別レ
テ朝鮮ニ留リ連絡ノ任務ニ當ルコトトナリタルモ曩ニ金丹治ハ
入鮮ノ際新義州ヲ通過セシヲ以テ咸興方面ノ地理ニ通セス危險
ノ惧アリタルヲ以テ本名ハ金丹治ヲ見送り十一月三十日京城發
列車ニテ咸興ニ至リテ一泊翌日本官廳迄見送り京城ニ引返シタ
リ

其後本年二月二十四日權五稜ヨリ三月一日ニ撤布スヘキ不穩文
書三百枚ヲ平壤金應基ニ手交スヘク依頼ヲ受ケ同日午後十一時
京城發列車ニテ平壤ニ至リ同地英林里一七四番地金應基ヲ訪
ネ同道外出シテ共同墓地横山ニテ該不穩文書ヲ手交歸京セリ
先之朴致英退鮮ノ際同人ト金丹治トノ間ニ於ケル連絡ハ毎月五
十五、二十五ノ三回毎日申報社前ニ於テ通信ヲ受ケ取ルコトト

ナリ居ル旨聞知シ居タルヲ以テ二月二十五日權五稜ヲ同所ニ赴
カシメタル處權ハ連絡者ヨリ金丹治ノ通信ヲ受取り歸宅シタル
ガ高四察ハ平壤出張中ナリシヲ以テ單獨種家温泉ニテ藥品暗號
記載ノ通信ヲ久リ出シ翻譯ニ從事シ居リ高四察モ亦歸京セルヲ
以テ同夜兩名ニテ微音之ニ從事シタルモ同夜ハ満足ナル翻譯ヲ
爲シ得ス翌日モ引續キ之ニ從事シツツアリタル折柄警察官ニ於
テ附近家宅搜索ニ從事シ居ルヲ察知シ該通信及不穩文書ハ一括
シテ袋中ニ隠匿シテ逃走桃花洞七八番地金順龍方ニ至リ宿泊ヲ
求メタルモ拒絕サレ止ム無ク豫テ知合ヒナリシ府内蕭井洞四番
地黃珍泳方ニ潜伏シ其後三日、五日、七日ノ三回金應基ノ娘金
玉奉ノ嫁入先タル仁寺洞二二番地ヲ訪問間接ニ桃花洞穩家ノ
狀況ヲ聽取セリ

其他金應韶方ニ滞在中一月中旬頃樞五稜ハ依頼シ度キモノアリ
トテ金應韶ノ妻金貞淑ヲシテ紙包ヲ携帯同伴シ來リタルヲ以テ
之ヲ披見シタルニ同志ノ寫眞ナリシヲ以テ金貞淑ニ看シテハ只
重要ナル書類ナリトテ之カ保管方依頼シ置キタリ

二 李 永 祥

浦鹽出發ノ際連絡部ヨリ入京後ノ連絡場所トシテ葵忠壇公園ヲ
指示セラレタルヲ以テ京城到着後數回ニ亘リ葵忠壇公園ニ赴キ
タルモ同志ト會見スルヲ得ザリシヲ以テ止ムナク地方ヨリ入學
ノ爲メ上京セシモノノ如ク裝ヒ府内仁義洞旅人宿權相方ニ宿泊
市内中ヲ徘徊シテ極力同志ノ探索ニ努メツツアリシカ十月下旬
頃鐵路通夜市ニ於テ偶然朱青松ニ邂逅シ翌日更ニ金應基ト邂逅
其後樞五稜ニモ遭遇シ更ニ樞五稜ノ紹介ニテ金丹治トモ會合シ

タルカ其際協議ノ結果同志多數京城ニノミ居ルハ不可ナルヲ以
テ金應基ハ平壤ニ本名ハ釜山ニト比較的工場労働者ヲ多數抱擁
スル地方都市ニ赴クコトトシタルカ其翌日樞五稜ヨリ國際共產
黨代表トノ面會ヲ邀セラレタルヲ以テ之ニ應シ翌日午後八時
頃延禧專門學校附近南方松山ニ於テ金丹治、樞五稜、金應基等
ト共ニ該國際共產黨代表外國人（米人スミス）ト會見シタルカ
該外國人ハ國際共產黨ノ使命ト同一ナル指示ヲ爲シタリ二三
日後更ニ樞五稜金應基ト會合最后ノ協議ヲ爲シ十一月二三日頃釜
山ニ向ケ出發セリ釜山到着後只徒食徘徊シツツアルハ更ニ官憲
ヨリ疑ハルル虞アリシヲ以テ靴修繕業トナリ市内ヲ徘徊中釜山
朝鮮紡績工場織布監督本田某ト知合トナリ同人ニ職工タルヘク
依頼シ十二月ヨリ職工見習トシテ就職スルヲ得タリ入社後約二

週間後同會社ニ於テ同盟罷業勸發シタルモ入社後日淺カリシ爲
メ活動意ノ如クナラスシテ終熄スルニ至レリ

本金 應 基

急調ヨリ輕便鐵道ニ乘リ會亭迄高四寮ヲ同伴シ來リタルモ高四
寮ヲ同伴スルハ反テ危險ノ虞アリタルヲ以テ會亭ニ於テ別レ各
別ニ入京スルコトトシ入京後ノ連絡場所（高四寮ノ項参照）ヲ
定メテ會亭ヨリ高四寮ヲ先行セシメ自分ハ一泊ノ後翌朝會文驛
迄ノ切符ヲ買ヒ正午頃到着大驛龍平迄歩行シタル後龍平ヨリ鐵
路城津ニ至リ驛附近鮮人某旅館ニ一泊翌朝午前二時頃急行ニテ
一路京城ニ向ヒ十月十三日午後八時清涼里驛下車太平通南門旅
館ニ慶北星州郡慶田面月谷洞李定基ト偽名シテ投宿シ翌日ハ博
覽會場附近ヲ始メ市内ヲ徘徊シテ同志ノ探索ニ努メタルカ發見

ニ至ラサリシヲ以テ同日午後七時頃豫テ約束セシ兼井洞附近ニ
至リタルモ何等カノ行違ノ爲メ邂逅スルコトヲ得ヌ其後二日間
市内ヲ徘徊同志トノ邂逅ニ努メタルモ達セス種々考慮シタル結
果李永祚ト別レニ際シ十月十五日、十六、十七日ノ三日間午
后八時頃バコダ公園中ニ於テ會合スヘク約シ居タルコトヲ思出
シタルヲ以テ十六日同所ニ赴クヘク出發シタル處鐵路通り夜市
ニ於テ李永祚ニ會シ李永祚ノ紹介ニテ國成社前ニ於テ權五稜ニ
モ面會スルコトヲ得タリ而シテ權五稜ヨリ余丹治カ入京桃花洞
八五番地金隠^ニ方ニ潜伏シ居ルコトヲ聞キ其夜ハ東大門警察署
附近鮮人旅館ニ一泊翌日金丹治ヲ訪問シ高四寮ト同伴歸鮮シタ
ル旨ヲ告ケタル處同道シ來ルヘク依頼サレタルヲ以テ直チニ引
返シ豫テ約束シアリタル需昌洞ニ至リ崔相^ニ方ヲ訪問高四寮ノ

所在ヲ訪ネタル處高ハ既ニ樓上洞ニ移轉シタリトノ事ナリシヲ
以テ更ニ樓上洞ニ至リ面會金丹治ヨリノ依頼ヲ傳ヘ高ヲ金丹治
迄ノ許迄進行セリ

其後同志ハ屢々會合シツツアリタルカ某日李永祚金應基權五稷
三名ハ南山公園ヲ散步シ途上運動方針ニ就キ協議ノ結果同志多
數ガ京城ニノミ止リ居ラスシテ一部分地方ニ至リ運動ニ從事
ヲ可トシ金丹治ノ指示ヲ受ケ決行スルコトセリ其後十月下旬
頃桃花洞裏山ニ於テ金丹治、權五稷、李永祚及本名ノ四名會合
前記協議ノ結果金丹治ニ對シ報告シタル處金丹治モ亦之ニ賛成
シタルヲ以テ權ハ京城ニ止マリ地方トノ連絡ヲ執リ金應基ハ平
壤ニ李永祚ハ釜山ニ赴クコトトシ其ノ翌日權五稷ノ紹介ニテ延
禧專門學校向山ニ於テ金丹治、權五稷、李永祚ト共ニ國際共產

黨代表某外國人(スミス)ト會見シタル後權五稷ノ紹介ニ係ル
鎮南浦加藤精米所ニ雇傭中ノ金聖圭宛ノ手紙ヲ權ヨリ受取り十
一月一日夜發列車ニテ平壤ニ至リ北鮮旅館ニ少憩ノ後鎮南浦ニ
至リ加藤精米所ニ金聖圭ヲ訪問紹介狀ヲ手交シ一先ツ旅館ニ引
揚ケ同日午後八時頃金聖圭ト再會其ノ紹介ニヨリテ職工監督李
炳善ニ依頼シ臨時人夫トシテ雇傭セラルルコトトナリ一日労働
ニ從事シタルモ激務ニシテ到底堪ヘ難キヲ以テ翌五日平壤ニ引
揚ケタリ

先之京城出發ニ際シ金丹治ヨリ五日正午平壤大同門前ニ於テ莊
禮血史(小説)ヲ手ニ喫煙シ居ラハ何人カ來リ面會スルヲ以テ
寓事ヲ依頼スヘク指示セラレタルヲ以テ同日正午之カ實行ヲ爲
シタルモ會見スルヲ得ス止ム無ク市内ヲ見物シタル後英林里七

番地労働下宿韓容宣方ニ一泊就職方ヲ依頼セシモ意ノ如クナラ
サリシヲ以テ再ヒ鎮南浦ニ至リ金聖圭、李炳善ニ對シ糯米所勞
働ヲ斷リ林橋行商ヲ爲スヘク五千個ヲ三十二圓五十錢ニテ仕入
平壤三友洋行ノ經營セル木船ニ運搬ヲ依頼シ其夜平壤ニ歸リ韓
容宣方ニ月八圓ノ宿料ニテ下宿スルコトトシ林橋ハ約一週間後
到着セシモ行商スル煩雜ナルヲ惟ヒ三友洋行事務員金某ニ四十
七圓五十錢ニテ賣却セリ

尙京城出發前權五稷ヨリ通信連絡ノ方法トシテ京城府南大門通
リ商業銀行事務員曹庚默宛通信スヘク約シアリタルモ京城出發
後約一ヶ月間通信セサリシヲ以テ權五稷ニ於テモ本名ノ住所ヲ
知ルニ由ナク或ハ鎮南浦金聖圭方ニ通信シ居ルヤモ知レスト思
ヒ某日鎮南浦ニ金聖圭ヲ訪問シタル處本名宛封書及葉書各一通

70

アリタルカ内容ハ何故通信セサルヤトノ事ナリシヲ以テ翌日平
壤ヨリ從來ノ行動及住所ヲ曹庚默宛通信セリ

其後本名ハ靴下製造ヲ修得シタルカ一月十二日午後二時發列車
ニテ沙里院ニ至リ携行セシ靴下ヲ賣却シテ旅費ヲ調達シ一泊後
京城ニ至リ一月十四日東亞日報社前ニ於テ權五稷ト會合種々打
合シタル後桃花洞ニ高四察ヲ訪問學校勸誘事件ニ關シ種々協議
シタルモ本件關係者ノ知合モ無ク且ツ資金無キヲ以テ何等具体
的方法ヲ決定スル處無ク立別レ同日權五稷ノ紹介ニテ朝鮮日報
社附近ニ於テ趙斗元ト會見金三十圓ヲ受取り朝鮮歩兵隊前ニ於
テ別レ其後權ノ紹介ニテ金遠培トモ會見シタルコトアリ十五日
退京平壤ニ歸リタリ其後靴下製造ヲ中止シ明太魚ノ行商ヲ始メ
約一週間ニシテ廢業其後二月中旬迄無徒食中賣残りノ靴下ヲ賣

却スル爲メ勝湖里ニ至リタルコトアリ其後適當ナル職業ナク下宿ニ於テ徒食中二月二十五日午前八時頃突然高四察機文約三百枚ヲ携帶シ來リタルヲ以テ之ヲ受取リタル後各三枚宛十二ノ封筒ニ入レ新幹會本部種友會本部、京城勞働總同盟仁川勞働聯盟兼二浦鐵工俱樂部光州勞働聯盟、釜山勞働組合、大邱勞働會、咸興勞働聯盟、洪原勞働組合、鐵道局々友會、元山勞働聯盟宛發送スヘク準備ヲ爲シ後部ハ同日午后八時ヨリ平壤專賣支局、池田金網製作所、煉瓦工場、光成高普校、光文印刷所、崇實高普校、大同靴下製造所、三幸靴下製造所、平壤驛前派出所附近等ニ約二十枚乃至五十枚宛撒布シ其傍邊ニ準備シタル十二個ノ郵便ヲポストニ投入セリ

其後適當ナル就職口無カリシヲ以テ金銀々夫トナルヘク三月二

日石炭驛ニ至リ更ニ約二里ノ奥山嶺山ニ至リ豫テ下宿中知合トナリシ李在順ト共ニ交渉シモ目的ヲ達セス一泊ノ後歸宅セシ處前日刑事ノ來リタルコトヲ聞知シタルヲ以テ同所ヲ引揚ケ前記李在順ノ居所ニ至リテ一泊變裝シテ鐵路京城ニ向ヒ太平通り三通旅館ニ投宿翌朝高四察ヲ訪問シタル處同所ヲ張込中ノ警察官ニ逮捕セラレタリ

へ朱 青 松

三峰ヨリ列車ニテ會寧ニ到リ一泊ノ上翌日鶴林炭坑ニ至リ同所ニ於テ日給七十五ニテ晝日間勞働シ其後咸南望素肥料工場建築場ニ於テ日給八十錢ニテ二日間勞働シ更ニ六月中旬元山ニ至リタルモ同地ノ地理ニ暗キヲ以テ先ツ元山埠頭ニ於テ築港工事ノ人夫トシテ從事中數回ニ亘リ豫テゴオリンヨリ指示セラレタ

ル元山ニ於ケル連絡場所中外印刷所宋仁哲ヲ訪問シタルモ同所
ニ於テハ容易ニ其ノ行先ヲ教示セサリシヲ以テ其ノ目的ヲ達ス
ル能ハス其後同人ハ當時警察ニ引^取セラレタル事ヲ聞知シ當分
釋放ノ見込無カリシヲ以テ約一ヶ月元山ニ滞在シ八月七日元山
ヲ出發徒歩ニテ京城ニ向ヒ漣川ヨリ汽車ニ乗シ同月十一日京城
驛ニ到着セリ而シテ差當リ就職スルヲ得策ト思ヒ直チニ往十里
驛前劉善君方ニ投宿電車軌道敷設工事人夫トシテ被雇八日間働
キタルカ同地ニアリテハ京城市内ノ事情判明セサルヲ以テ京城
市内ニ移ルコトトシ休日ヲ利用シテ京城ニ至リ就職口ヲ求メタ
ル結果東小門内ニ於テ働クコトトナリ八月二十日東崇洞一二〇
金星七方ニ移轉日給七十錢ニテ道路工事ニ從事中夜間ハ京城市
内ヲ徘徊同志トノ邂逅ニ努メタル結果八月末日鐘路通りニ於テ

李永祚ニ出會途々今後ノ方針ニ就キ協議シタル結果本名ハ飴行
商ヲ爲スコトトシ資金トシテ李永祚ヨリ金四圓ノ交附ヲ受ケ其
後ノ連絡場所ヲ鐘路二丁目東亞婦人教會附近ト定メ立別レタリ
而シテ本名ハ飴行商ニ就キ洪鍾化ト相談シタル處保證金トシテ
三圓位ヲ出セハ容易ニ出來得ルトタ事ナリシヲ以テ鐘路六丁目
一三三番地飴賣韓永洙ニ對シ希望ヲ述ヘシ處保證金二圓ヲ納入
シテ飴行商トナレリ

其後數回李永祚ト會合シタルコトアルモ未タ何等ノ具體的協議
ヲ爲スニ至ラス先之東小門内ニ於テ電車線路工夫トシテ從事中
豫テ在露當時入鮮ニ際シ鮮内ノ連絡場所トシテ指示セラレタル
安國洞十一番地ニ數回洪承祐ヲ訪問シタルモ同家ニ於テハ同人
ヲ容易ニ教示セサリシヲ以テ種々考慮ノ結果在莫斯科當時同校

ニ在學セシ金道燁ヨリ同人ノ妹カ京城府積善洞三十三番地ニ居住
シ居ルヲ追想シ或ハ同人ニ會見セハ洪ノ所在判明スヘシト思料シ
同人ヲ訪問シタル時妹朴瑛海ハ既ニ彌雲洞ニ移轉セリトノ事ナリ
シヲ以テ更ニ移轉先ヲ訪問シ洪承祐ノ所在ヲ尋ネタルニ却ツテ不
親切ナル態度ナリシヲ以テ却テ危險ナリト思料シ其儘歸リタリ
其後李永祚ノ紹介ニテ朝鮮日報前ニ於テ權五稷ト會合某支那パン
屋ニ於テ運動方針ニ付種々協議シタルモ何等具體的決定ヲ見スシ
テ立別レタリ其後何等爲スコト無ク荏苒時日ヲ経過セシヲ以テ同
年九月權五稷ト會見シタル際一定ノ場所ヲ定メテ館製造ヲ爲シ度
キ旨ヲ述ヘテ贊成ヲ得其資金トシテ同人ヨリ前後二回ニ亘リ金二
十圓ノ交附ヲ受ケ高陽郡龍江面孔德里八十六番地金就根方ノ一團
ヲ月金三圓ニテ借受ケ九月中旬頃移轉セリ其後モ引續キ館製造ニ

從事シ居タルモ主義運動方面ニ對シテハ何等ノ活動無ク斯クテハ
切角ノ使命ニ背クヲ以テ權五稷ニ對シ種々相談シタル處十二月某
日本名ニ對シ金連培ヲ紹介シ共ニ協力活動スヘク命シタリ而シテ
同日本名ハ金連培ニ對シ運動方針タル國際共產黨ノ使命ヲ具サニ
説明其ノ贊成ヲ得テ立別レタリ其後金連培ノ紹介ニテ張奎鼎ト知
合トナリ舊正月元旦張奎鼎方ニ於テ金連培ト都合三名會合運動方
針其他ニ就キ協議シタルカ協議ニ先タチ先ツ若シ同家ニ警察官侵
入シ來リタル際ノ言逃レ策トシテ豫メ協議ノ必要アリトシ本名ハ
古荷車買受ケノ爲メ同家ヲ訪レタリト云ヒ金連培ハ又年始ノ爲メ
來レリトノ事ニ申合セタル後種々協議シタルカ結局理想ヨリ實現
ナリトシ其第一着ヲシテ三名カ一小グループヲ組織シテ其ノ勞力
ヲ分配スヘク本名ハ宣傳部ヲ金連培ハ連絡部張奎鼎ハ組織部ヲ擔

當シ國際共產黨ノ組織方針ニ從ヒ自ラ労働者ノ群ニ投シ精銳分
子ノ摘發訓練ニ努ムルコトトセリ然レ共數日ノ後權五漫ト會見
シタル際前記計劃ヲ權ニ話シタル處權ハ自己ノ連絡員トナルヘ
シトテ本計劃ニ賛成セサリシヲ以テ本計劃ハ何等ノ實行ヲ見ス
シテ有耶無耶ニ終リタリ

其後自分ハ權五漫ノ直屬員トナリ居タルモ何等ノ事業モ爲スコ
ト無ク曠日久シク時恰モ學生騒擾事件當時ナリシヲ以テ權五漫
ニ對シ此ノ機會ニ於テ何等カノ事業ヲ爲スヘク進言シタル處權
モ亦之ヲ諒トシ之カ具體的計劃ハ比較的早クヨリ入京潜伏シ居
リ且ツ學生方面トモ相當連絡アル趙斗元ニ圖ルニ如カスト爲シ
本名ヲ同伴東大門外ニ趙斗元ヲ訪問光熙門外支那料理店ニ於テ
該計劃ヲ打明ケタル處趙モ亦大ニ賛意ヲ表シ積極的ニ展開スル

コトトシ之カ實行ハ專ラ趙斗元單獨ニテ學生事件繼續者ト連絡
活動スルコトトシタルモ間モ無ク趙斗元逮捕セラレタルヲ以テ
實際運動ヲ爲シ得ザリシト云フ

其後自分ハ權五漫ノ命ニヨリ元山ニ至リ秋官承及李舟河（兩名
ハ何レモ趙斗元ト情ヲ通セルモノ）ニ對シ趙斗元ノ逮捕ヲ通知
シ尙ホ洪原郡前津驛附近ニ於テ（生）羅基ニ對シ同様趙ノ逮捕セラ
レタルヲ傳フヘク依頼セリ

其後權五漫ト協議ノ結果三一記念日ヲ期シ不穩ビラヲ撒布スル
コトトシ本名ニ於テ之カ草案及撒布ヲ擔當權ハ之カ印刷ヲ擔
當スルコトトシ諸般準備ヲ整ヘツツアリ二月二十五日權五漫ヨ
リ約六百枚位ノ不穩檄文ヲ受領シ其ノ半分ハ京城府内ニ半分ハ
釜山ニ運般李永祚ト共ニ配布スヘク命セラレ旅費トシテ金十圓

ノ交附ヲ受ケ市内ニ於ケル撒布方ニ付奔走中事件發覺シ自宅附近ニ刑事張込ミ居ルヲ感知シタルヲ以テ京城府内ノ極文撒布計劃ヲ打切其夜ハ同志タル中林洞酒釀造店內書記趙今龍方ニ至リ情ヲ告ケテ一泊シタルカ其ノ際所持セシ約二百枚ノ極文全部ヲ燒却變裝ノ上二月二十七日午後九時南行急行列車ニテ京城出發釜山ニ至リ李永祚ヲ頼リテ潜伏中逮捕セラレタリ

ト安秉珍

大正十五年七月浦鹽ニ立寄リタル際共產大學出身者ニシテ入籍中大正十五年第二次朝鮮共產黨檢舉ヲ免レ浦鹽ニ亡命中ノ余成澤ニ出會シ當時朝鮮ニ於テハ第二次共產黨檢舉ニテ主義者多數其ノ厄ニ遭ヒ入籍スルノ危險ナルヲ聞知シタルヲ以テ約一ヶ月間滞在朝鮮内狀況ノ豫備知識及連絡場所等ニ付研究シタルカ大正

十五年八月下旬頃浦鹽出發同年九月上旬京城着豫テ前記余成澤ヨリ指示アリタル連絡所元無產者同盟幹部元友觀ヲ其ノ住所タル高陽郡龍江面何峴里ニ訪問情ヲ打明ケタル處現在ノ狀態ニテハ到底活動シ能ハサルヲ以テ暫ク時機ヲ窺フヘントノコトナリシカ其後同人ヨリ梁明ナル者ヲ紹介サレ次テ之等ト相談ノ結果高麗共產青年會中央執行委員會ヲ組織セリ委員ハ梁明、李仁秀、余剛、余光澤、余海、元友觀、安秉珍（本名）ノ七名ナリ次テ責任秘書梁明、組織部責任李仁秀、同部員余海、宣傳部責任金剛同部員安秉珍、余光恩、共產黨代表元友觀ト其ノ部署ヲ決定セルモ幾許モ無ク黨内軌轢ヲ生シタルヲ以テ責任秘書梁明ハ到底初期ノ目的ヲ達スルコト能ハストテ其ノ職ヲ辭シ海外ニ赴クヘント黨ノ再組織ノ議ヲ出シ人物ヲ物色中ノ盧河淵、趙紀勝

溫藥中、宋彦弼、林炯日^{金哲}、安秉珍ヲ以テ再組織ヲ爲スコトトシ
同年十二月責任秘書河弼源、組織部責任金哲、同部員趙紀勝、同安
秉珍、宣傳部責任林炯日、同部員宋彦弼、溫藥中ト其ノ部署ヲ決定
セリ

然レ共本組織モ^亦幾許モ無ク軌轢ヲ生シタルノミナラス各黨員ハ
自分ヲ火曜系人物ト同一視シ排斥スルヲ以テ昭和二年四月中旬
頃上海ニ渡リ曹奉岩ト會シテ其ノ諒解ヲ求メタル處再ヒ歸鮮シ
モ一ブル責任金炯斗ト共ニモ一ブル事業ニ從事スヘク命セラレ
曹奉岩ヨリ資金トシテ壹千四百圓ノ支給ヲ受ケ同年五月再ヒ入
鮮セリ然ルニ朝鮮共產黨ニ於テハ自分カ單獨ニ斯ル行動ニ出テ
タルハ不都合ナリトテ會員權ノ無期停止ヲ命シタルヲ以テ本籍
新義州ニ歸郷シ朝鮮日報新義州支局記者トナリ新義州青年同盟

新幹會新義州支會等ニ對スル表現運動ニ從事シツツアリシ處昭
和三年八月青年同盟宣言綱領等不穩ナリトテ同地警察署ニ於テ
治安維持法違反トシテ檢舉セラレ昭和四年十一月同地地方法院
ニ於テ懲役六年ノ言渡ヲ受ケ控訴シ昭和五年三月末無罪出獄シ
爾來梅里ニ於テ靜養中逮捕セラレタリ

子趙 樂 昌

大正十五年六月初旬求職ノ爲メ本籍地出發京城ニ至リ府内中林
洞一二四番地親族孫海重方ニ滞在就職口ヲ求メ傍ラ同志ヲ搜索
スヘク府内ヲ徘徊中府内仁寺洞所在新興青年同盟ヲ訪問シタル
際同會幹部廉昌烈ト知合トナリ同人ノ紹介ニテ元共產大學同窓
生タル金政珪ト會シ主義宣傳ノ爲メ協議ヲ爲シタル結果三名ニ
テヤチエ一カヲ組織シ主義ノ研究ヲ爲シツツアリシカ當時第二

次朝鮮共產黨事件檢舉中ナリシヲ以テ本名モ亦逃レテ本籍地ニ
潜伏シ同年八月初旬再ヒ上京シテ孫海重方ニ潜伏中苑洞盧成烈方
ニ於テ高光洙ト遭ヒ三名ニテヤチエーカヲ組織シ屢々會合シタ
ルカ昭和二年九月盧成烈ハ逮捕セラレ其後ヤチエーカハ解散同
様トナリ昭和三年二月十日頃南大門市場附近ニ於テ共產大學同
窓生タル金世淵ニ遭遇シ種々會話ノ末同人ハ既ニML黨ヲ組織
シアリ加入方ヲ勧誘セラレタルモ身ノ危險ヲ虞レ加入ヲ拒絶シ
タルカ幾何モ無クML共産黨ノ檢舉ニ着手シタルヲ以テ本名ハ
再ヒ逃レテ郷里ニ歸レリ其後同年八月出京孫海重方ニ潜伏中同
年十月府内中林洞酒造店朴鍾燁方店員ニ被雇中昭和五年二月十
五日蘆葉町附近ニ於テ朱青松ト會シ求職方ヲ依頼セラレ立別レ
後兩名ハ屢々會合運動方針ニ付種々協議シタルモ具体的方針決

定ニ至ラサル中ニ二月二十六日朱青松ガ來訪シ身ノ危險ヲ訴ヘ
一時隱匿方哀願スルヲ以テ之ヲ承諾シ孫海重方ニ連行一夜宿泊
セシ翌日蘆葉町某古物商ニ至リ朱青松ノ爲メニ衣服ゴム靴帽子
等ヲ買ヒ求メテ變裝セシメ別ニ現金二圓五十錢ヲ給シ釜山ニ逃
走セシメタルカ其後逮捕セラレタリ

5、生活費ノ出所

イ 權 五 稷

莫斯科出發ニ際シ旅費トシテ金七十圓ノ支給ヲ受ケタルト書續
其他身邊品ヲ賣却シ合計百餘圓ヲ携帯浦鹽ニ至リ同地ニ於テ旅
費トシテ更ニ五十圓ノ支給ヲ受ケ入鮮シタルカ着京當時殘金百
二十圓アリ専ラ生活費ニ充當タリ其後十月頃南山公園ニテ金應
基、李永祚ト會合シタル際金應基カ國際共產黨浦鹽連絡部ヨリ

右三名ノ運動資金トシテ頂リ來リタル金四百圓ノ手交ヲ受ケ其
後金、李カ金山平壤ニ赴ク際各五十圓宛ヲ本名ヨリ支出シ又朱
青松ノ商業資金トシテ五十圓朴振英ノ生活費トシテ三十圓、金
應基ノ旅費トシテ三十圓ヲ支出シタルヲ以テ資金缺乏シタル爲
メ朴振英ヨリ四十圓金翰ヨリ二十七圓ノ支給ヲ受ケ生活費ニ充
當其後三、一紀念日ニ於ケル撤文撤布資金トシテモトブル金翰
ヨリ金三百圓ヲ月利二分五厘ノ證書ヲ差入レ貸借ノ形式ニテ支
給ヲ受ケ其内李承燾ニ對シ資金其他トシテ前後三回ニ亘リ七十
圓ヲ支給、朴長松ヲシテ撤文ヲ所持元山ニ赴カシメシ際旅費ト
シテ二十五圓、元山金剛商會李某ニ對シ二十五圓、高四察ヲシ
テ平壤金應基宛撤文ヲ運搬セシメタル際ノ旅費トシテ二十圓、
朱青松ヲシテ釜山李永祚宛撤文ヲ運搬セシメムトセシ際ノ旅費

二十五圓、金連培ノ撤文撤布資金トシテ十圓、高四察ノ生活資
金トシテ支出シ其他ハ本名ノ生活資金其他ニ幾分ヲ使用百餘圓
ヲ所持シ居レリ

口朴長松

入鮮ニ際シ莫斯科ニ於テ旅費トシテ九十五圓浦羅連絡部ヨリ六
十圓ノ支給ヲ受ケタルモ京城到着迄ニ約三十圓ヲ消費殘額百二
十餘圓アリ妻崔聖姬ガ上京ノ際三十五圓ヲ所持シ來リタルヲ以
テ之等ヲ合シ仁川ニ一戸ヲ構ヘテ生活セリ其間糧五稷ヨリ元山
迄ノ旅費トシテ三十五圓ノ支給ヲ受ケタルコトアリ檢舉サレタ
ル當時漸ク生活困難ニ陥リ今後勞働者ト爲リ生活スヘキ考ヘナ
リト言ヒ特ニ生活費トシテ支給ヲ受ケタルコトナシ

ハ高四察

京城到着當時七十圓ヲ所持シ居リ之ヲ以テ被服其他ヲ購入尙殘
金ハ金丹治ト共ニ費消シタルカ金丹治ト同様スルニ至リテヨリ
ハ生活費ハ全部金丹治ニ於テ支出シ金ガ逃走ノ際高四森ノ生活
費トシテ六十圓ヲ與ヘタルモ全部下宿料ニ充當シ逮捕當時ハ僅
カニ二十五圓ヲ所持シ居タルノミニシテ將來女工トナリテ生活
スヘキ考ヘナリシト云フ而シテ本名ハ金丹治ノ情婦ナリシヲ以
テ金丹治ノ所持金及其ノ出所等ニ付嚴重取調タルヲ余ハ關係ニ
就テハ全ク不知ナリトテ自白セス

ニ李永祚

入獄後豫テ國際共產黨ヨリ旅費トシテ支給セラレタルモノノ内
權五稷ニ預ケ置キタルヲ釜山ニ赴ク際權五稷ヨリ余五十圓ノ支
給ヲ受ケタルコトアリ釜山ニ於テハ勞働者トナリ自活シ居リ特

79 特

ニ生活資金ヲ受ケタルコト無シ

本金應基

京城到着當時國際共產黨ヨリ支給セラレタル旅費ノ殘額二百十
圓アリタルカ内百四十圓ハ同志間ノ生活費運動費ト爲スヘク協
議ノ上權五稷ニ依頼シアリ殘余ヲ以テ生活シツツアリタルカ平
壤ニ赴ク際權五稷ヨリ金五十圓ノ支給ヲ受ケ平壤ニ至リテ靴下
製造等ニテ自活シ其後一月十四日連絡ノ爲メ京城ニ出タル際權
五稷ヨリ金三十圓ヲ受取りタルコトアルモ主トシテ自活シ居タ

ヘ朱青松

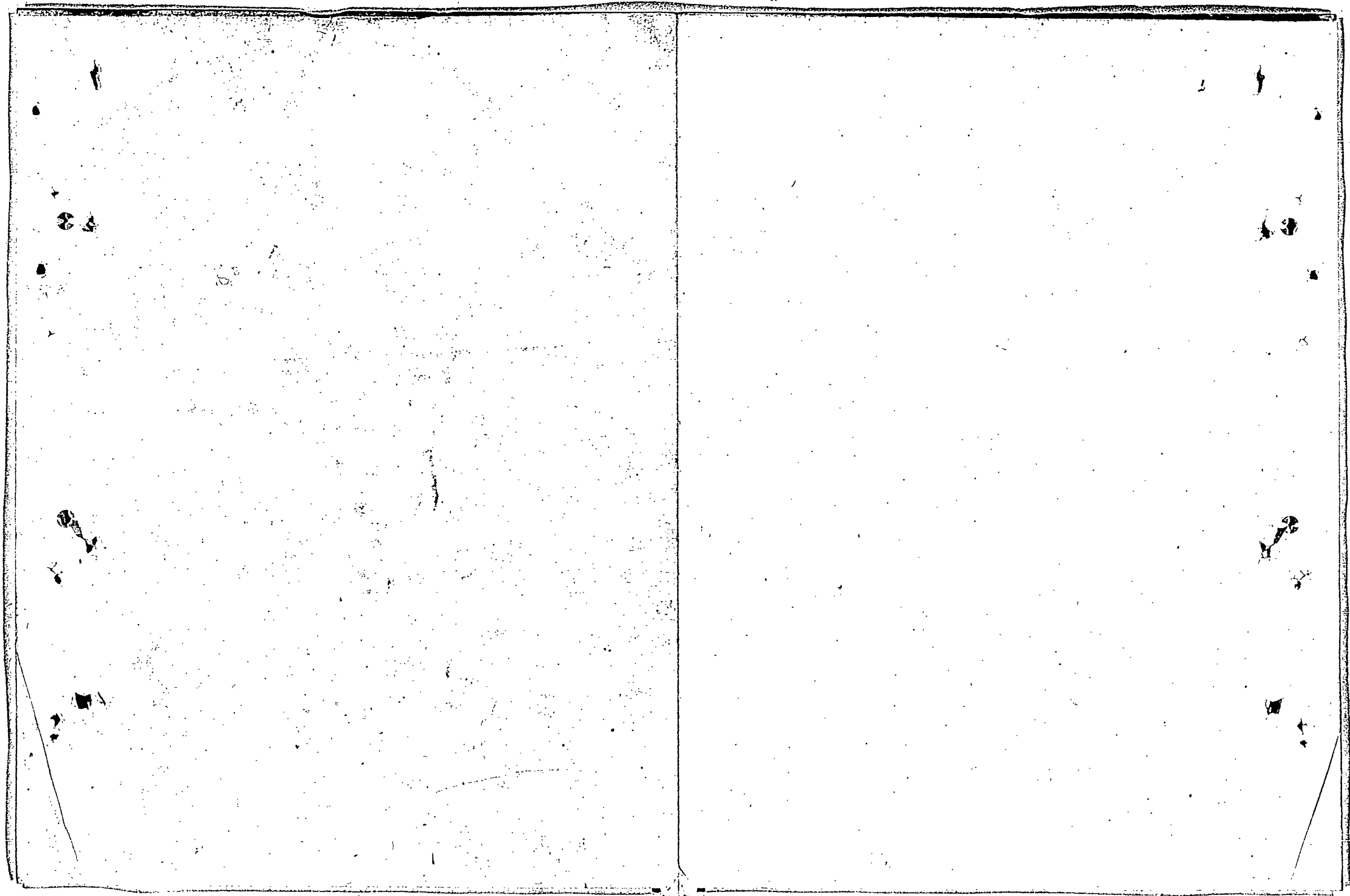
飴賣資会トシテ李永祚ヨリ四圓、權五稷ヨリ約四十圓ノ支給ヲ
受ケタルコトアルモ大体ニ於テ自活シ居タリ

ト安 秉 珍

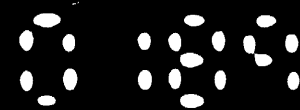
共產大學在校當時學校ヨリ支給セラルル毎月ノ小使中貯蓄シタルモノ百七、八十圓アリ及朝鮮ノ際國際共產黨ヨリ支給セラルタル旅費ノ残額等ニヨリ暫ク生活シ居リタルモ其後新聞記者ニ就職シ幾何モ無ク治安維持法違反トシテ檢舉本年三月迄收監セラレタリ

子趙 業 昌

朝鮮後労働自活シ居リ國黨ヨリ資金等貰ヒ受ケタルコト無シ



I-0852



五、朝鮮共産黨トコンミンテルンノ關係

朝鮮共産黨ノ承認及資金關係

イ、樺 五 稜

目下朝鮮ニ於ケル共産黨ハ確固タル組織成立シ居ラサルヲ以テ
國際共産黨ノ承認ハ受ケ居ラス資金關係ハ黨中ノ秘密ニシテ全
ク不明ナリ而シテ自分ノ運動中得タル見聞ヲ綜合スルニ朝鮮共
産黨ハ國際共産黨ノ承認ヲ得タル場合國際共産黨朝鮮支部トシテ
國際共産黨ヨリ指示命令ヲ受ケ黨則ヲ遵守シテ之カ運動ヲ爲ス
モノナリ黨トノ資金關係ニ就テハ入黨前ハ黨員ニ非ラサリシノ
ミナラス本關係ハ秘密トナリ居リ開知スルヲ得ス朝鮮共産黨ハ
大正十四年四月頃一時國際共産黨ノ承認ヲ受ケタルモ昭和三年
七月國際共産黨大會ニ於テ朝鮮共産黨ハ派閥鬭爭ヲ繰返シ爲ニ

數次發覺檢舉セラレ未ダ着實ナル運動ト認ムル能ハストノ理由
ノ下ニ其ノ承認ヲ取消サレタリ

ロ、朴 長 松

大正十四年朝鮮共産黨ハ國際共産黨ノ承認ヲ受ケ國際共産黨ノ
朝鮮支部トナリタルカ其ノ關係ハ即チ露語ニテセツグチアコレン
コンミンテルントナリ而シテコンミンテルンノセツグチアニナ
レハ黨大會(コンミンテルンノコンGRES)ニ對シ制規ニヨリ
黨員數ノ率ニ從ヒ代表ヲ出席セシムルコトヲ得此ノ代表ハ發言
權、決議權、選舉被選舉權ヲ生ス而シテ以上ノ權利ハ國際共産
黨ノ正式承認ヲ得テ初メテ發生スルモノナルカ承認ヲ得サル前
ニ於テハ黨大會ニ參席發言權ヲ與ヘララルノミナリ而シテ朝鮮
ニ於ケル第一次共産黨權五萬一派ハ大正十四年曹奉岩ヲ國際共

産黨ニ出頭セシメ交渉ノ結果國黨ノ正式承認ヲ得タルモ昭和三年七月黨大會ニ於テ之カ承認ヲ取消サレタリ

ハ、高 四 察

朴長松ノ供述ニ同シ

ニ、李 永 祚

同上

ホ、金 應 基

同上

ヘ、朱 青 松

同上

ト、安 秉 珍

同上

チ、趙 秉 昌

不明ナル旨陳述ス

2 コンミンテルン内ニ於ケル朝鮮人黨員

イ、權 五 稷

聞知スル範圍ニ於テハコンミンテルン内ニハ朝鮮共產黨員ナシ

ロ、朴 長 松

權五稷ノ供述ニ同シ

ハ、高 四 察

國際共產黨員タルノ資格トシテ(イ)綱領ニ服従スルモノ(ロ)總務金ヲ讓出スルモノ(ハ)黨ノ機關ニ於テ勤クモノタルコトヲ要スルカ
コンミンテルンニ加入スルコトハ共產黨員タリト雖モ個人トシテ單獨加入スルコトヲ得サルモノノ如ク目下朝鮮人ニシテコソ

インテルンニ加入シ居ルモノナシ

ニ、李 永 祚

黨員トシテコンミンテルンニ關係アルモノナキモ青年會員トシ

テ首勸ナルモノ關係シ居リタルモ詳細判明セス

ホ、金 應 基

コンミンテルン内ニ朝鮮共產黨員一名モ無シ

ヘ、朱 育 松

金應基ノ供述ニ同シ

ト、安 秉 珍

同 上

チ、趙 榮 昌

滯露中コンミンテルン關係者トシテ在莫斯科朝鮮同民會長イワ

85

ン(本報鮮名不詳)一名アリタリ

3. コンミンテルンノ東洋赤化方略殊ニ朝鮮ニ對スル宣傳方法

イ、權 五 稷

コンミンテルンノ赤化方略ハ絶對秘密ニシテ詳細判明セサルカ
滯露中修得セシ處ニ依レハ資本主義經濟組織ノ頂點ニ達セシ民
族ニ對シテハ始メヨリ無產者獨裁政治ヲ目標トシテ資本主義制
度ノ缺陷及没落ノ過程ニアル現状ヲ指摘シ養成ニ努ムルモ未ダ
資本主義制度ノ發達ノ程度低キ國家ニ對シテハデモクラシー運
動ヨリ始メ殊ニ朝鮮ノ如キ殖民地タル特種地帯ニ對シテハ殖民
地ノ解放民族本位ノ政治ヲ目標トシテ労働、農民、小ブルジョ
アノ各部門運動ヲ爲スト云フ即チ自分等ノ如キ共大卒業黨員ヲ
派遣シ自ラ各階級層ニ投シ労働階級ニ對シテハ労働組合ヲ農民

ニハ農民組合ヲ小ブルジョアニ對シテハ借家人組合等ノ表現闘
争團體ヲ組織セシメ日常各自ノ經濟的向上ヲ計ルヘク闘争セシ
メテ同盟罷業、借家争議、小作争議等ヲ誘發セシメ機會アル毎
ニ最モ容易ナル事象ヲ捕ヘテ階級意識ヲ注入シ新クシテ意識分
子ノ養成ヲ圖リ意識分子ガ相當ノ數ニ達シタル後黨ヲ組織シテ
漸次大衆ニ及ホシ運動方針ヲ政治的方面ニ轉換指導シテ革命ヲ
圖ルニアリ

ロ、朴 長 松

權五稷ノ供述ニ同シ

ハ、高 四 察

判明セスト云フ

ニ、李 永 祚

權五稷ノ供述ニ同シ

ホ、金 應 基

英米獨佛等ノ如ク資本主義制度ノ發達其ノ頂點ニ到達シタル國
家ニ於テハ革命ノ蜂起無產者獨裁政治ノ實現ノ時機ニ到達シタ
ルモノト謂ヒ得ルモ東洋各國ノ如ク資本主義經濟制度未タ發達
セス所謂資本主義デモクラシー時代ニ於テハ當面ノ事業トシテ
先ツ封建時代ノ遺物タル階級制度專政制度ヲ一掃セサルヘカラ
ス其ノ手段トシテ先ツ言論集會ノ自由權獲得自由貿易ノ促進關
稅撤廢勞動組合法ノ制定等ヲ促進セシメ資本主義ノ極度ノ發達
ヲ圖ルト共ニ之ニ伴フ資本主義ノ缺陷ヲ勞動者大衆ヲシテ自覺
セシメテ革命ヲ起サシメ無產者獨裁政治ノ實現ヲ圖ルモノナリ
而シテ之カ具體的運動方針トシテ莫斯科出發時ニ於ケル國際共

産黨ノ指令タル労働者農民ヲ本位トシテ潜入黨員各自カ直接無
産階級ニ投シ精銳分子ノ摘發教養ニ努力スルモノナリ

ヘ、朱 青 松

共產大學卒業生ヲ鮮内ニ派遣シ直接労働者群ニ投セシメテ主義
宣傳ヲ爲サシメ其ノ間優秀分子ヲ摘出シテ意識的教養ヲ爲レ一
方朝鮮ノ如キ殖民地タル特種地帯ニ於テハ民族主義者トモ提携
シテ共ニ帝國主義ト抗爭終極ノ目的タル無産者獨裁政治ノ實現
ヲ期スルニアリ

ト、安 秉 珍

朱青松ノ供述ニ同シ

チ、趙 榮 昌

朱青松ノ供述ニ同シ

ㄱ 콘ミンテルンノ朝鮮共產黨ヘノ命令系統

イ、權 五 稷

コンミンテルンヨリ朝鮮共產黨ニ對スル命令ハ先ツ瀋陽所在東
洋連絡部ヲ通シ同連絡部ヨリ使者ヲシテ朝鮮ニ直接命令スルモ
ノナリ

ロ、朴 長 松

權五稷ノ供述ニ同シ

ハ、高 四 察

同 上

ニ、李 永 祥

不明ナリト云フ

ホ、金 應 基

同上

ヘ、朱 青 松

同上

ト、安 乘 珍

同上

チ、趙 象 昌

同上

ヨ、朝鮮共産黨ヨリコンミンテルンヘノ報告系統

イ、權 五 稷

朝鮮共産黨員ヲ捕虜所在國際共産黨東洋連絡部起使セシメ報告

シ連絡部ヨリ更ニ國際共産黨ニ報告ス

ロ、朴 長 松

85

權五稷ノ供述ニ同シ

ハ、高 四 察

同上

ニ、李 永 祚

判明セスト云フ

ホ、金 應 基

同上

ヘ、朱 青 松

從來ハ其地所在露國及領事館等ニ於テ連絡ノ任ヲ執リツツアリ
タルカ嘗テ支那ニ於テ領事館ノ大搜索ヲ受ケタル後領事等ノ連
絡ハ一切禁止セラレタリト云フ目下ノ連絡方法ハ權五稷ノ供述
ニ同シ

ト、安 乘 珍

不 明

チ、趙 秉 昌

不 明

六、朝鮮共產黨最近ノ情勢

一九二八年十二月コンミンテルン執行委員會政治書記局ノ採擇シタル決議「革命闘士タル農民及労働者ニ對スル朝鮮問題」(朝鮮共產黨再組織ニ關スル指令)ノ影響及活動狀況

イ、權 五 稷

昭和三年七月國際共產黨大會ニ於テ從來ノ朝鮮共產黨ハインテリゲンチヤノミヲ以テ組織シタル爲メ彼等ハ自派勢力範圍ノ擴張ノミヲ圖リ既往ノ經驗ニ徴スルニ幾許モ無クシテ派閥鬭争ヲ

87

惹起シテは意ノ探知スル處トナリ運動ノ目的ヲ達スルコト能ハス斯クテハ國際共產黨ノ眞實ナル運動方針ニ非ラストノ理由ノ許ニ大正十四年來ノ承認ヲ取消サレタリ然ルニ其後同年十二月コンミンテルン執行委員會政治書記局ニ於テ「革命闘士タル農民^及労働者ニ對スル朝鮮問題」ノ決議ヲ採擇シ朝鮮ニ對スル赤化方針ヲ一新シテ朝鮮ニ於ケル既存ノ共產黨或ハ從來檢舉セラレタル共產黨ノ殘黨等ト關係無ク當時東方勞力者共產黨在學中ノ朝鮮人留學生ヲ相前後シテ入鮮セシメ之等ヲシテ自ラ農民、労働者、小ブルジョア階級層ニ投シテ精銳分子ヲ摘出シ朝鮮ニ於ケル眞實ナル國際共產黨ノ運動方針ニ合致スル理想的新朝鮮共產黨ヲ組織セシムヘク決定シ先ツ其ノ第一着手トシテ卒業黨員ノ課業下シテ労働ヲ體驗セシメタル後客年十月前後ニ於テ之

等共大卒業生數名ヲ朝鮮ニ派遣セリ而シテ之等共大卒業ノ新進
黨員ハ京城ヲ本據ニ金丹治ヲ指導者トシテ黨及青年會、モ一ブ
ルノ組織ヲ完了シコンミンテルノ指導方針ニ基キ地方農民勞
働者ニ對スル各部署分擔ヲ決定シ先ツ李永祚、釜山ニ金應基ヲ
平壤ニ朴長松ヲ仁川ニ派遣シ着々實行ニ着手シ釜山朝鮮紡ニ於ケ
ル同盟罷業、仁川加藤精米所同盟罷業等ニ對シ裏面策動ヲ爲シ
タルモ何レモ日尙淺カリシ爲メ所期ノ目的ヲ達スル事能ハスシ
テ終了シ其後仁川ヲ本據トシテ學生其他ヲ煽動スヘク三一紀念
日ニ不穩文書ヲ作成スル等實際運動ニ着手シタルモ幾許モ無ク
檢舉セラル而シテ前記コンミンテルン執行委員會政治書記局ニ
於テ採擇シタル決議ニ對シテハ從來ノ朝鮮ニ於ケル主義者モ既
往ノ失敗ニ鑑ミ派閥鬭爭ヲ清算シテ何等カノ方法ニヨリ局面打

開ヲ策セサル可ラストハ最近ニ於ケル主義者間ノ一致スル希望
ナリシヲ以テ新ニ入鮮セル共大卒業生等ノ主張スル新方針ニ對
シテモ無條件合流スルノ狀勢ニアリ

ロ、朴長松、高四察、李永祚、金應基、朱育松

何レモ權五稷ノ供述ニ同シ

ハ、安秉珍

永年入獄中ナリシ爲最近ノ情勢不明ナリ

ニ、趙秉昌

不明

2 黨再組織ノ方法及理論

イ、權五稷

從來ノ朝鮮共產黨ハ前述ノ如クインテリゲンチヤノミヲ以テ組

織シタル爲メ派争ニ次クニ派争ヲ以テシ之カ表現團體タル青總
勞總農總等アルモ之等ニ對シテハ表面的運動ノ指導ヲ爲スノミ
ニシテ眞實ナル國際共產黨ノ指導方針ニ基ク指導ヲ爲スコトナ
ク只管自派勢力ノ表面的抗爭ヲ爲スノミニシテ而モ抗爭ノ結果
ハ數次ノ黨組織發覺トナリ黨員ガ多數檢舉セラルルノミナリシ
ヲ以テ昭和三年七月國際共產黨ハ右ノ如キ基礎的教養ヲ爲スコ
ト無クシテ幹部間ノ派争ニノミ終始スル共產黨ハ承認シ難シト
ノ理由ノ下ニ從來ノ承認ヲ取消タルカ其後國際共產黨執行委員
會政治書記局ノ採擇セル決議ニ基キ共大卒業生ヲ黨内ニ派遣シ
テ從來ノ共產黨ト何等關係ナキ新ナル共產黨同青年會ノ幹部ノ
組織ヲ爲サシム之等幹部ハ京城ヲ中心トシテ各自地方ニ赴キ農
民労働者層ニ接シテ先ツ表現團體ヲ組織シテ主義宣傳ノ具トナ
89

シ續テ精銳分子ヲ物色シテ之ヲ教養シ同志ヲ養成シテヤチエー
カヲ組織シ漸次國際共產黨ノ要求スル所願眞實ナル黨ノ組織ヲ
爲スニアリ

ロ、朴長松、高四察、李永祚、金應基、朱青松

何レモ權五稷ノ供述ニ同シ

ハ、安秉珍、趙秉昌

最近ノ情況ニ通ゼズ

3. 再組織問題ト派閥關係

イ、權五稷

從來朝鮮ニ於ケル主義者間ニ反覆セラレツツアリシ派争ハ延テ
數次ノ共產黨ノ檢舉トナリ既往ニ於ケル派争ニヨリ生スル辛キ
經驗ニ鑑ミ派争ヲ清算シテ局面ノ打開ヲ圖ルヘシトハ主義者間

最近ノ一致セル主張ナルト一面國際共產黨執行委員會政治書記
局ニ於テ採擇セル決議ノ通りニシテ却テ之ヲ歡迎スルノ状態ニ
アリテ何等ノ派争等ナシ

ロ、朴長松、高四察、李永祚、金應基、朱青松

具レモ權五稷ノ供述ニ同シ

ハ、安秉珍、趙彙昌

不明ナル旨供述ス

ㄥ 國外ニ於ケル再組織運動ト派閥争闘状況

イ、權 五 稷

國外ニ於ケル状況ニ關シテハ何等關知スル處ニアラズ全ク不明
ナリ

ロ、朴長松、高四察、李永祚、金應基、朱青松、安秉珍、趙彙昌

90

何レモ權五稷ノ供述ニ同シ

亞細亞局

昭和五年
十月八日

朝鮮總督府警務局

昭和五年拾月拾一日接

滿洲ニ於ケル共產黨ノ直接行動ニ關スル件

滿洲ニ於ケル朝鮮人共產主義運動ハ彼等ノ傳統的派閥闘争ニ囿セラレ
テ其ノ宣傳工作上ニ行詰リヲ演ジ之ガ打開策トシテ各派合同運動ヘ向
ヒ中國ニ於ケル反帝運動ノ勃興ト共ニ超民族的帝國主義打倒資本主義
施設ノ破壊、反軍閥蘇聯擁護等ノ標語ノ下ニ漸次中韓共產黨合同ノ機
運ヲ促成シ全滿農民大衆ノ獲得ト南方支那ニ於ケル共匪紅軍ノ活躍ハ
延イテ本年ノ五卅間島暴動事件ヲ惹起セシムルニ至リ愈々中韓共匪合
同ヲ確實ナラシメ其ノ暴動ノ範圍ヲ擴大シ當初ノ單ナル日本帝國主義
機關ノ破壊ヨリ中國軍閥富豪ヘノ反抗トナリ本年八月一日ノ國慶反
デ―ヲ機トセル吉敦沿線地方ニ於ケル暴動以來純然タル組織的赤色テ
ロ運動ヘ進展シ爾來機會アル毎ニ其ノ兇暴行爲ヲ繼續シ加之滿洲ニ於

ケル特種情勢タル馬匪賊ノ流梁ハ金品掠奪ナル目的ノ下ニ手段ヲ選バ
ザル一致ノ行動ヲ採リ著シク滿洲ノ治安ヲ擾亂シツツアルモノノ如ク
一面之ガ取締ノ任ニ當ル支那官憲ニ於テハ隨時討伐隊ヲ出動セシメ或
ハ之ニ関連スル各種ノ取締令ヲ發布シ又ハ密訓ヲ發シテ之ガ鎮壓ヲ爲
シツツアル模様ナルモ支那官憲ニ於テハ之等ノ暴動ハ日本ガ滿蒙侵略
ノ野心ヲ遂行スル爲日本浪人或ハ共匪ヲ使喚煽動シテ出兵ノ口實ヲ得
ントシテ敢行セシメタルモノナリト疑惑視シ日本帝國主義滿蒙侵略ノ
前驅ナリト誣ヒ居レル在滿朝鮮人ヲ迫害驅逐シ以テ從來ヨリ抱懷セル
排日國權恢復運動ニ利用セムトシ共匪ノ檢舉若クハ取締令ニ藉口シテ
凡有機暴殘虐ヲ過ウシ居ルヤノ情報モアリ在滿朝鮮人ハ今ヤ之等支那官
憲馬賊共匪等腹背ヨリ暴行迫害ヲ蒙ムリ居住頗ル難澁ナルヤノ趣ナリ
之ガ詳細ナル狀況ニ至リテハ地域の關係等ニテ調査不能又ハ困難ナル

點アリ真相ヲ盡スコト能ハザルモ今日迄ニ得タル情報其ノ他ヲ綜合推
斷スルニ滿洲ニ於ケル共產主義運動ノ變遷並現況ハ大略利紙ノ如ク其
ノ成行ハ相當注意ノ要アルモノト思料セラル

御參考迄通報ス

本書發送先

拓務省朝鮮部長 天津、上海、奉天、吉林、朝鮮軍司令部
内務省警保局長 哈爾濱、間島、朝鮮憲兵隊司令部
關東廳警務局長 安東、長春、領事各道、知事
外務省亞細亞局長 支那公使館
警視總監
在支公使